

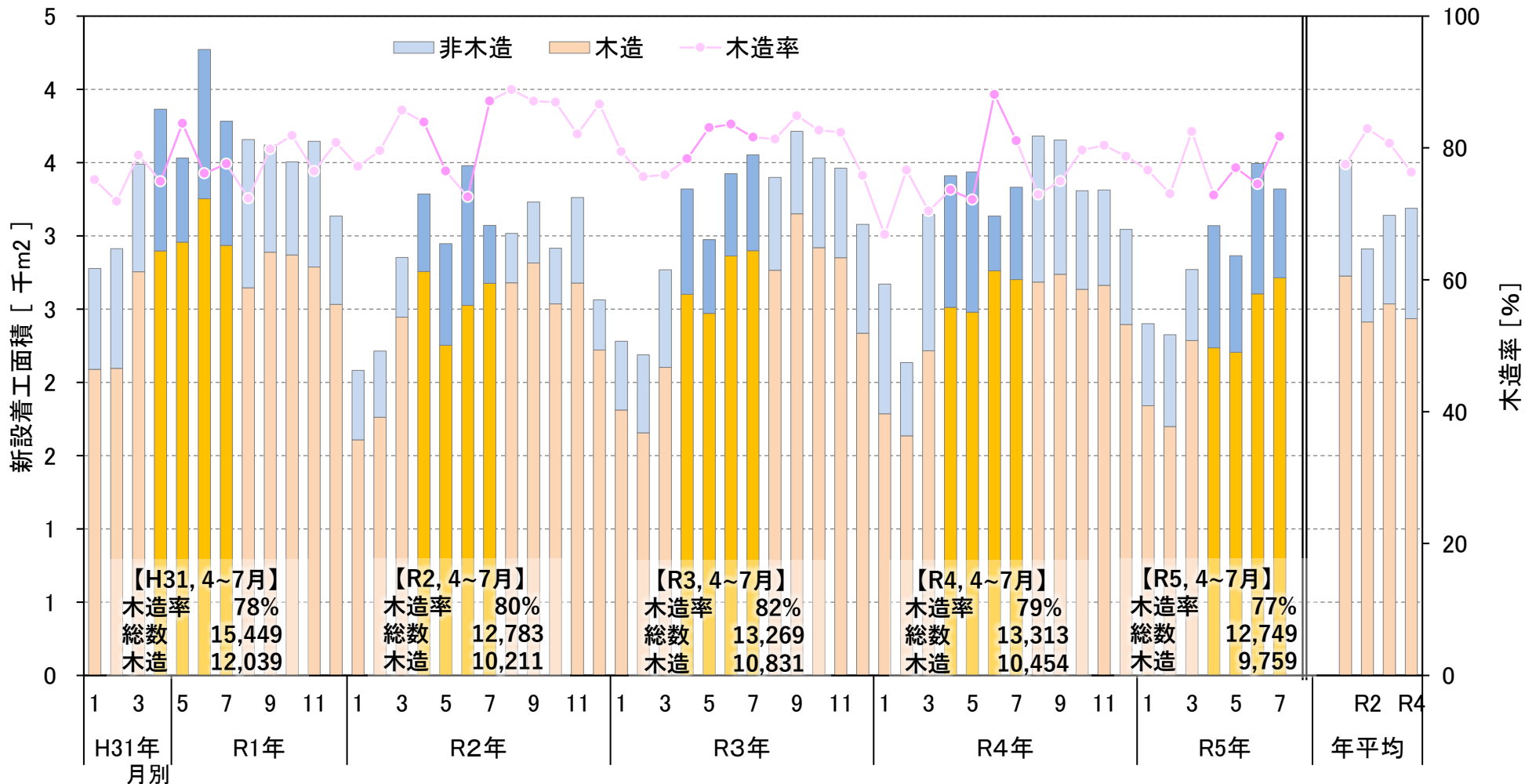
東北森林管理局管内の 木材需給及び木材価格等について

令和5年9月28日(木)

東北森林管理局

■ 東北森林管理局管内5県の新設住宅着工戸数の推移 (平成31年1月～令和5年7月)

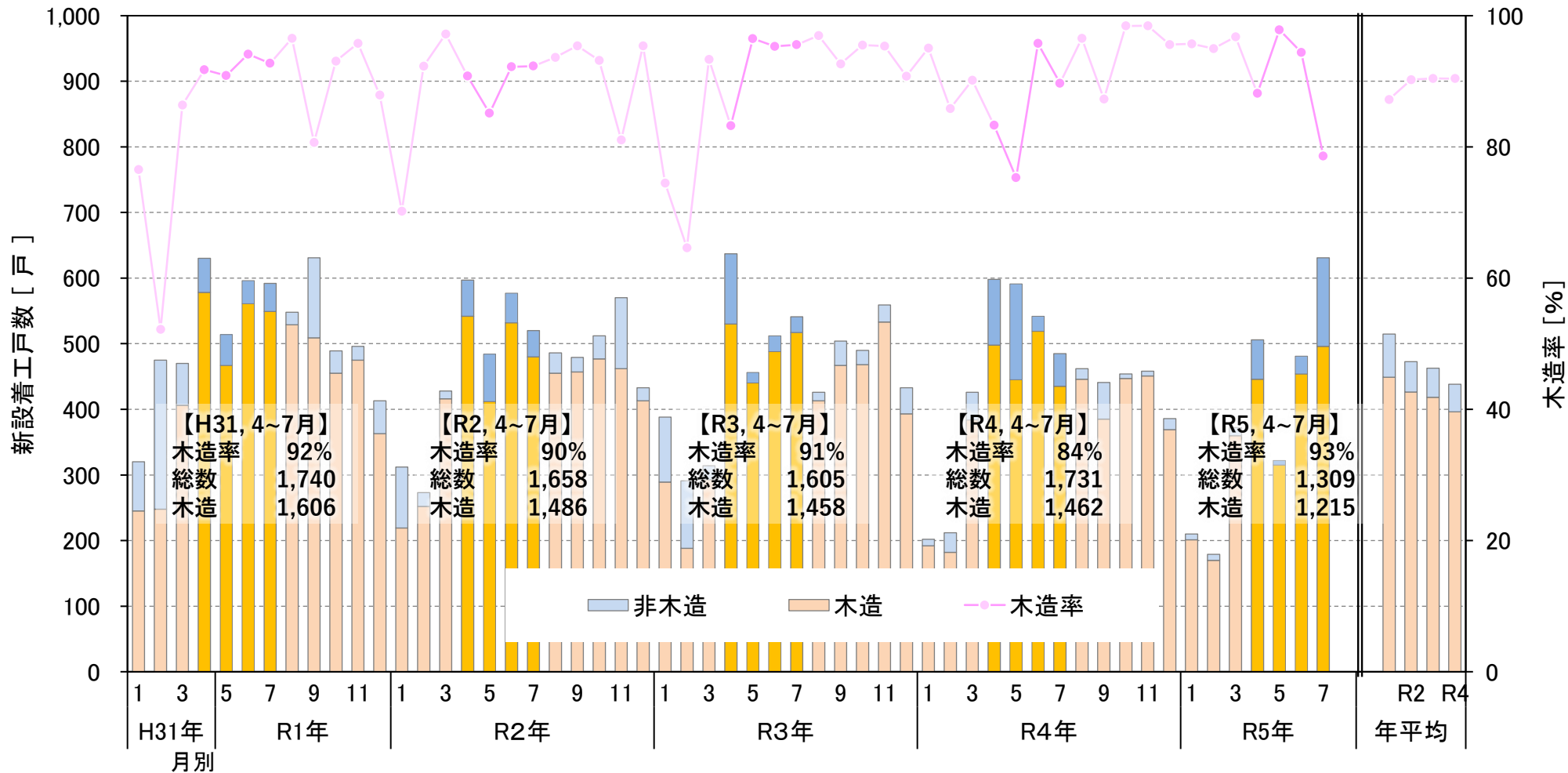
○ 東北5県の令和5年4～7月期の新設住宅着工数は、昨年同期より564戸減少した。
 この期間の木造は昨年同期より695戸減少し、木造率は-2%であった。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 青森県の新設住宅着工戸数の推移 (平成31年1月～令和5年7月)

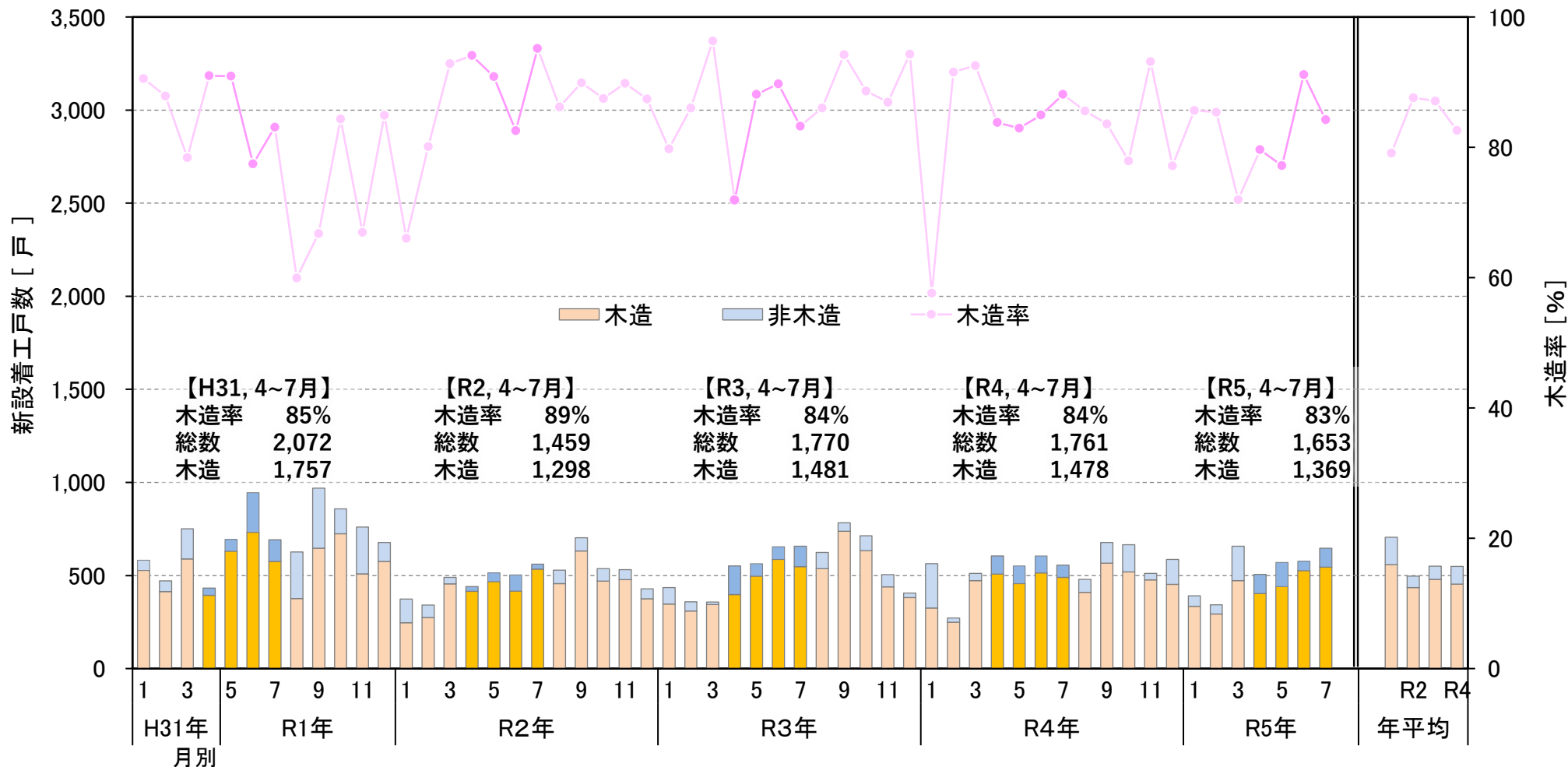
○ 青森県の令和5年4～7月期の新設住宅着工数は、昨年同期より422戸減少した。
この期間の木造は247戸減少し、木造率は9%増加した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

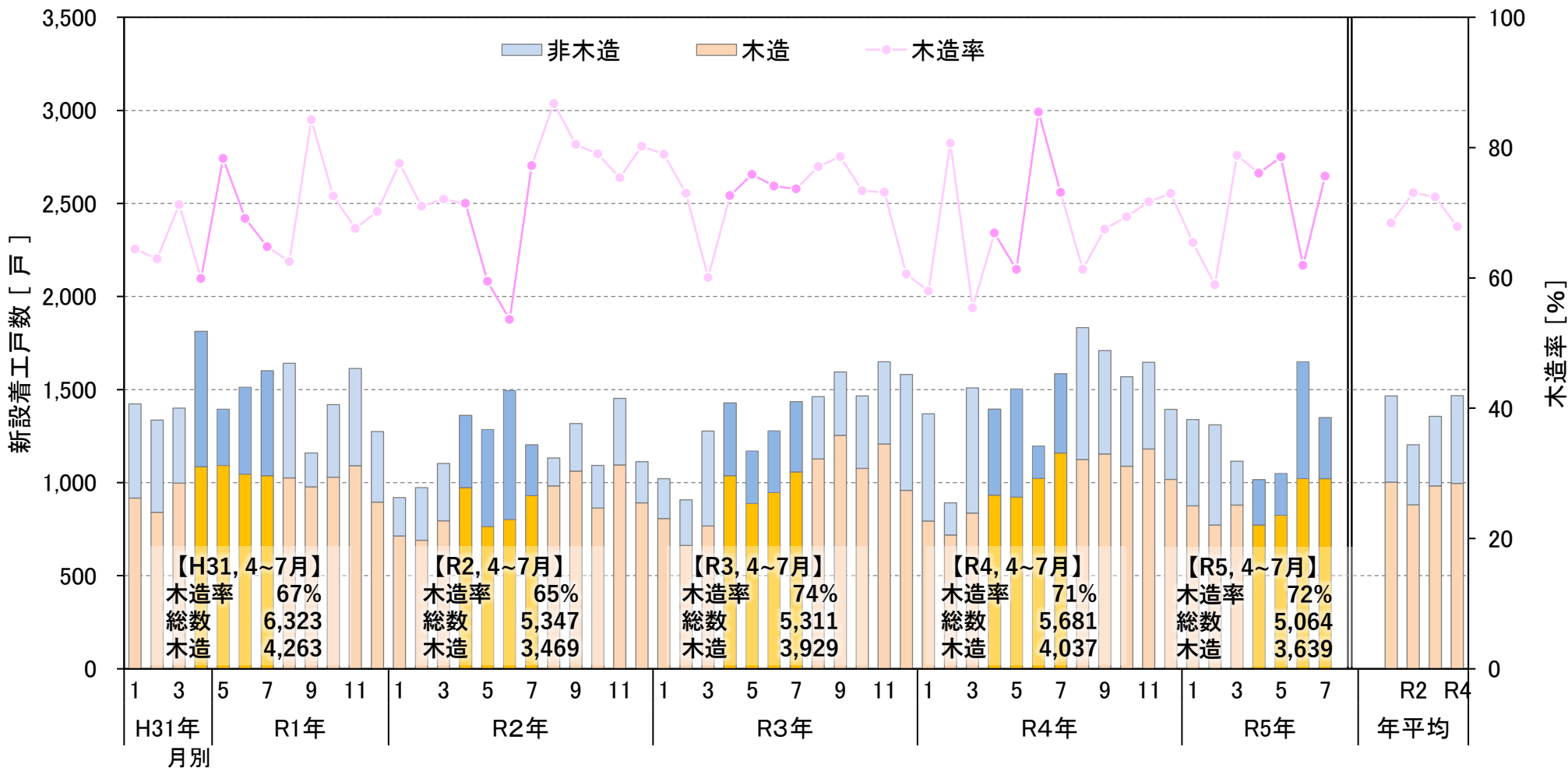
■ 岩手県の新設住宅着工戸数の推移 (平成30年1月～令和5年7月)

○ 岩手県の令和5年4～7月期の新設住宅着工数は、昨年同期より108戸減少した。
この期間の木造は109戸減少し、木造率は1%減少した。



■ 宮城県の新設住宅着工戸数の推移 (平成31年1月～令和5年7月)

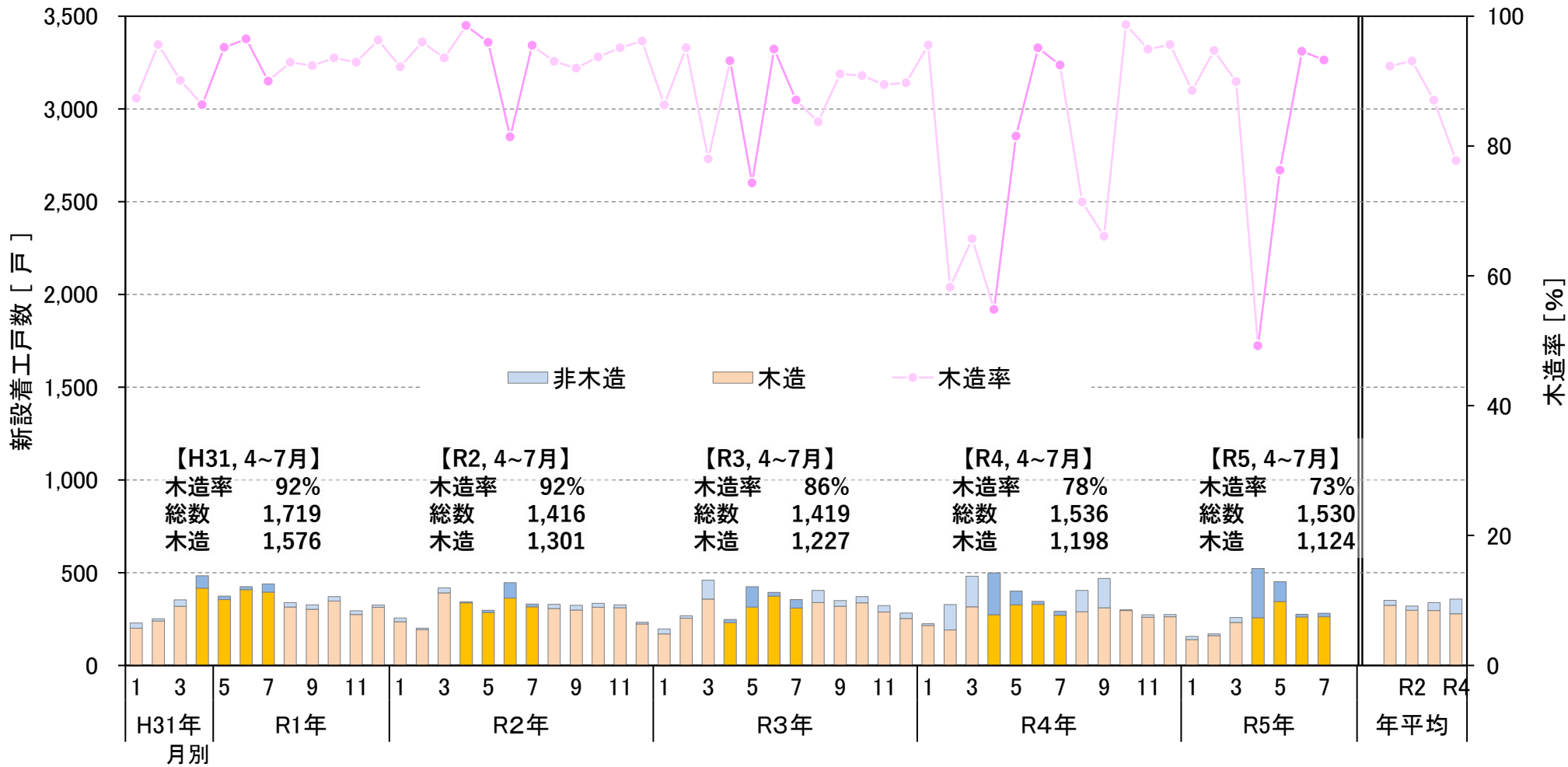
○ 宮城県の令和5年4～7月期の新設住宅着工数は、昨年同期より617戸減少した。
この期間の木造は398戸減少し、木造率は1%増加した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 秋田県の新設住宅着工戸数の推移 (平成31年1月～令和5年7月)

○ 秋田県の令和5年4～7月期の新設住宅着工数は、昨年同期より6戸減少した。
この期間の木造は74戸減少し、木造率は5%減少した。

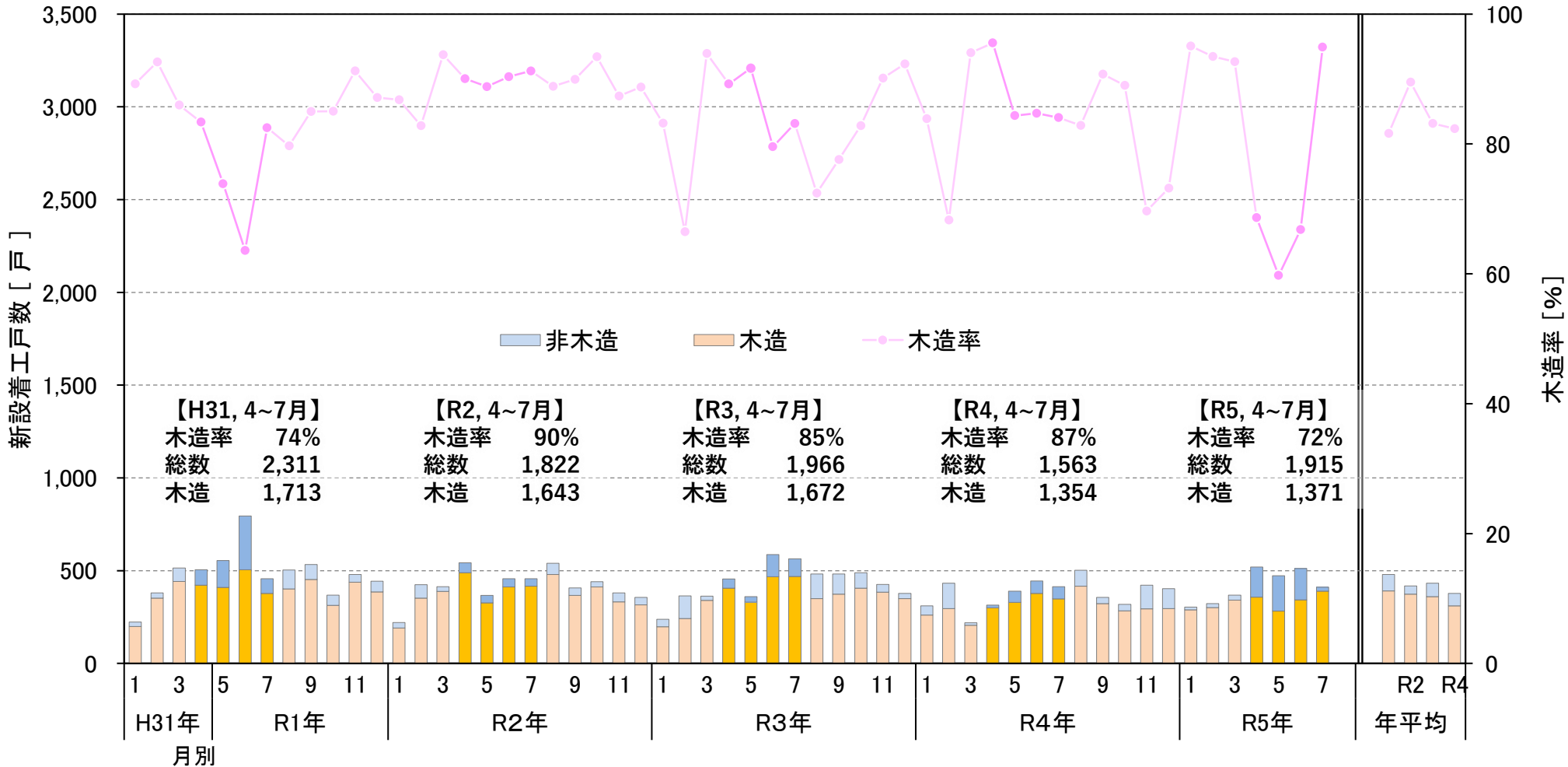


出典：国土交通省「住宅着工統計」

山形県の新設住宅着工戸数の推移 (平成31年1月～令和5年7月)

○ 山形県の令和5年4～7月期の新設住宅着工数は、昨年同期より352戸増加した。
この期間の木造は17戸増加し、木造率は15%減少した。

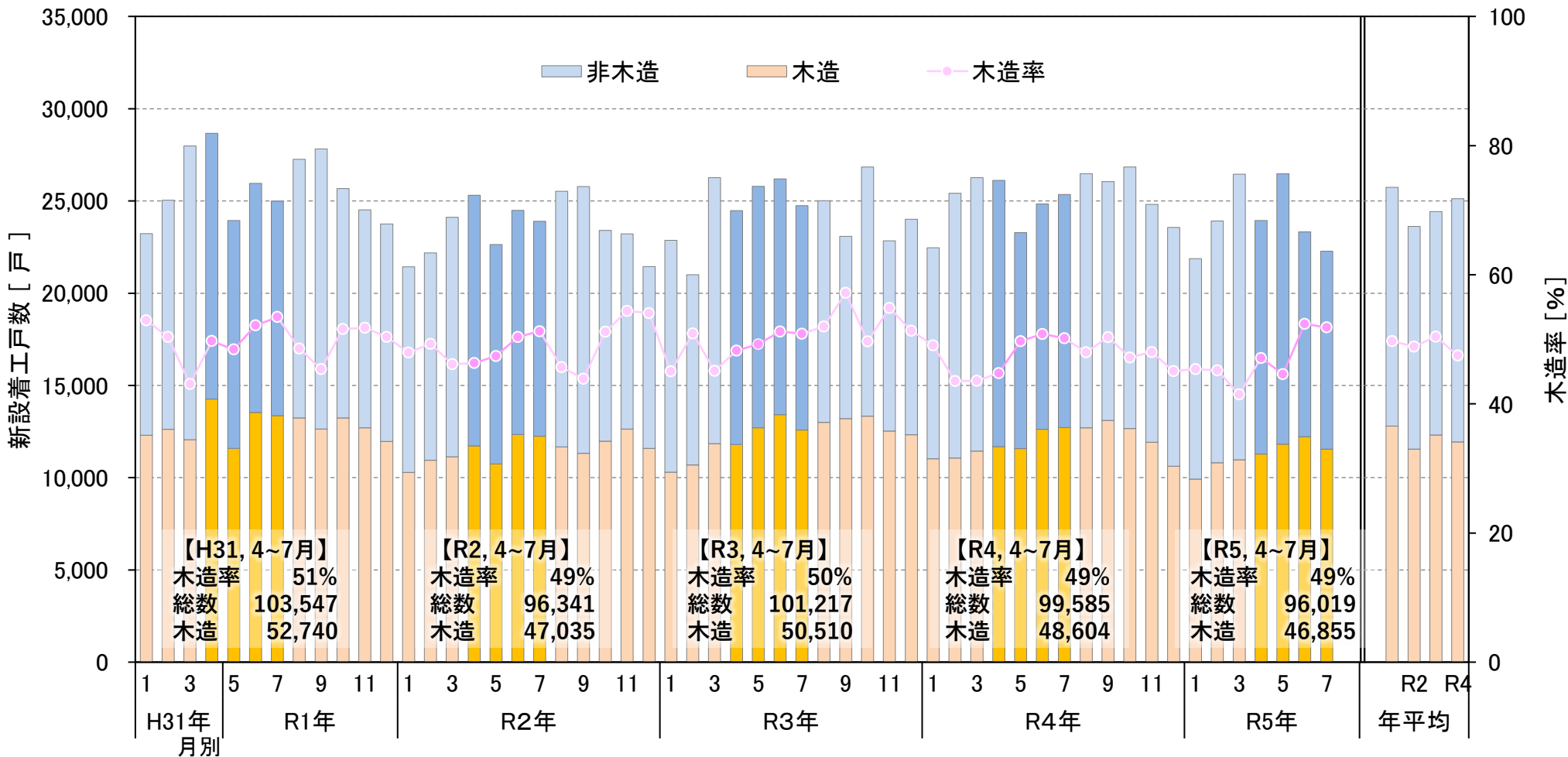
山形県



出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 埼玉、千葉、東京、神奈川の新設住宅着工戸数の推移 (平成31年1月～令和5年7月)

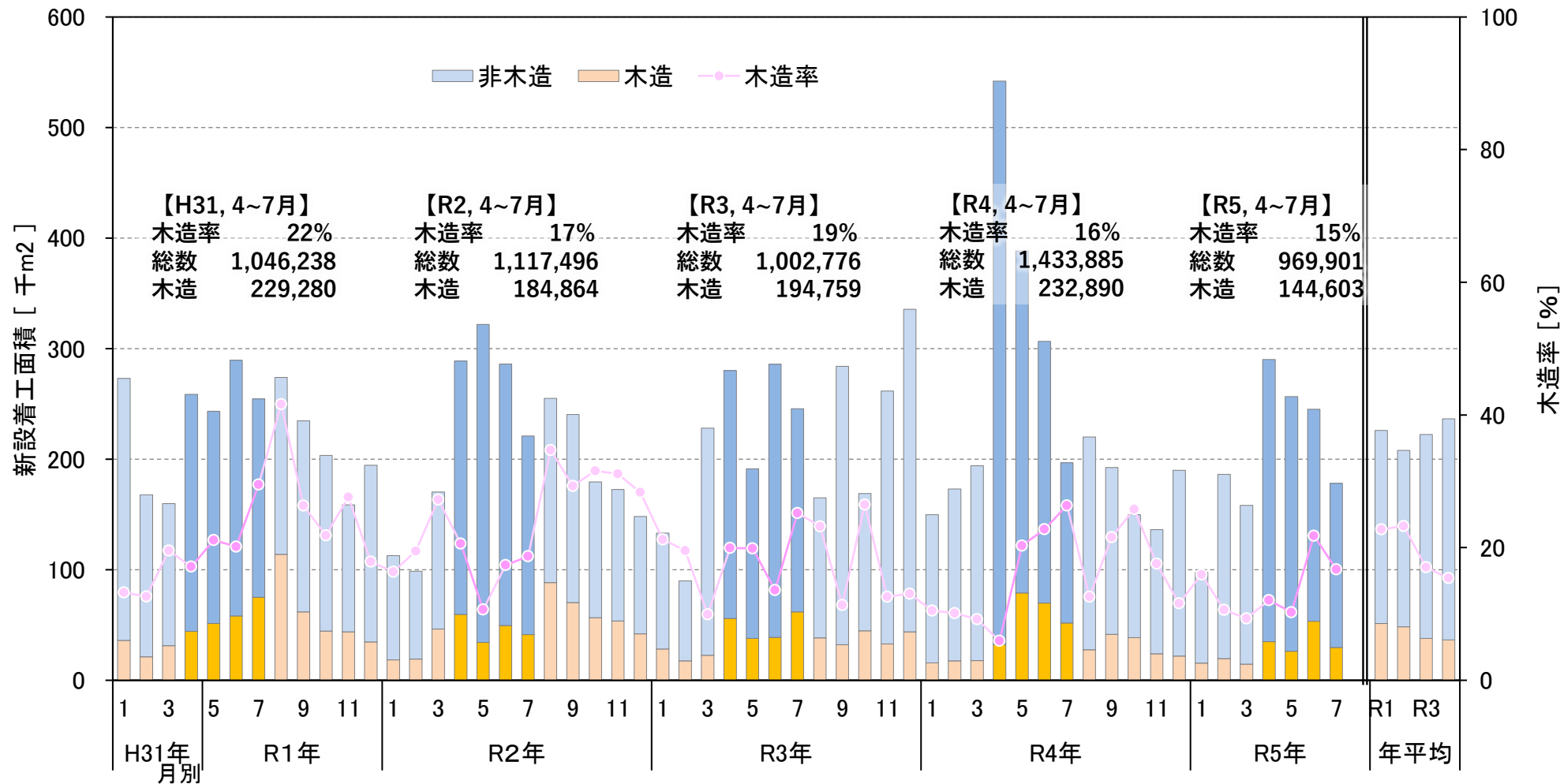
○ 関東主要都市の令和5年4～7月期の新設住宅着工数は、昨年同期より3,566戸減少した。
この期間の木造は1,749戸減少し、木造率は±0だった。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 東北森林管理局管内5県の新設産業用建築物着工面積の推移 (平成31年1月～令和5年7月)

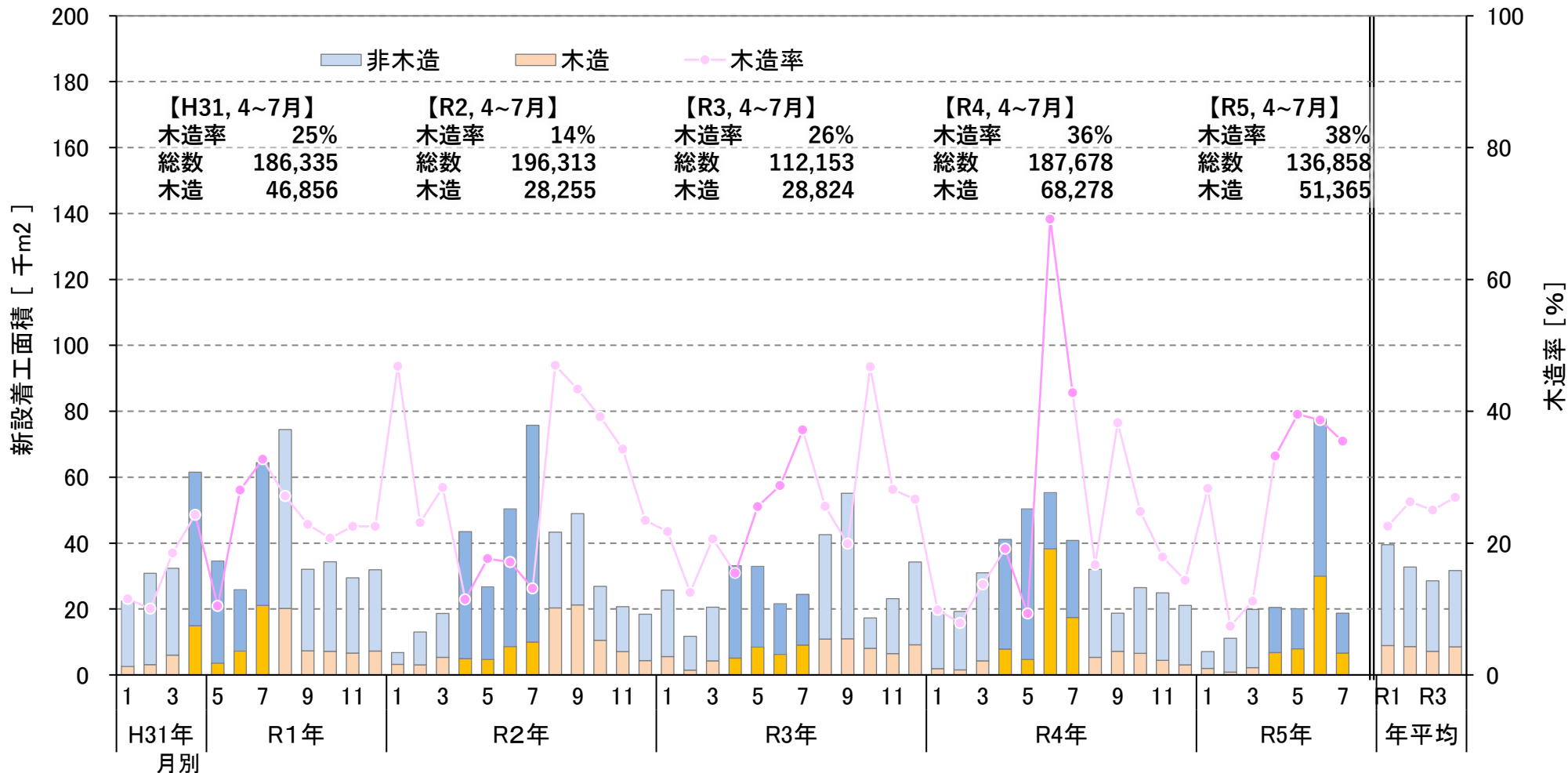
○ 東北5県の令和5年4～7月期の新設産業用建築物着工面積は、昨年同期より463,984㎡減少した。この期間の木造は昨年同期より88,287㎡減少し、木造率は1%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 青森県の新設産業用建築物着工面積の推移 (平成31年1月～令和5年7月)

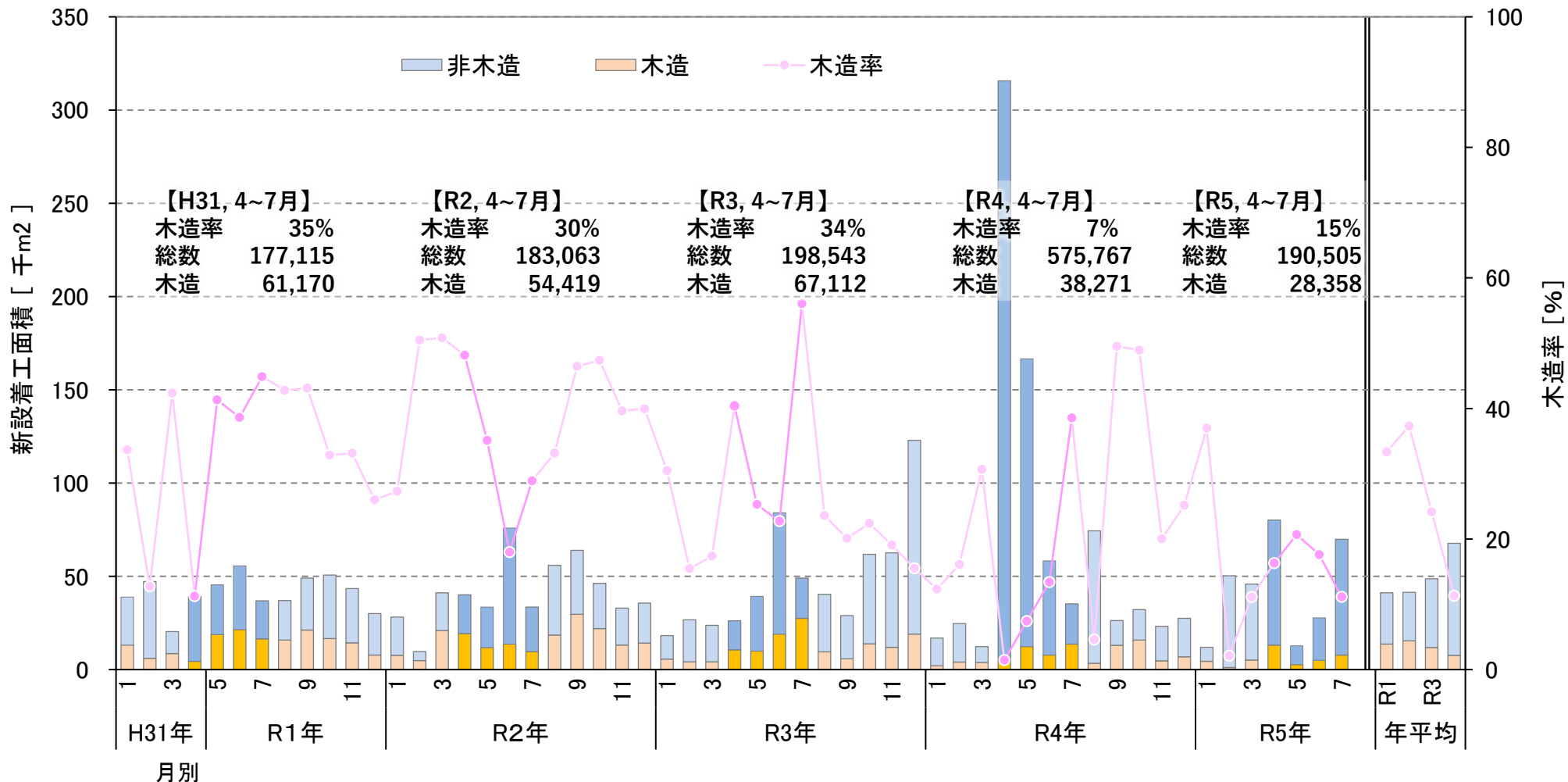
○ 青森県の令和5年4～7月期の新設産業用建築物着工面積は、昨年同期より50,820㎡減少した。
この期間の木造は16,913㎡減少し、木造率は2%増加した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 岩手県の新設産業用建築物着工面積の推移 (平成31年1月～令和5年7月)

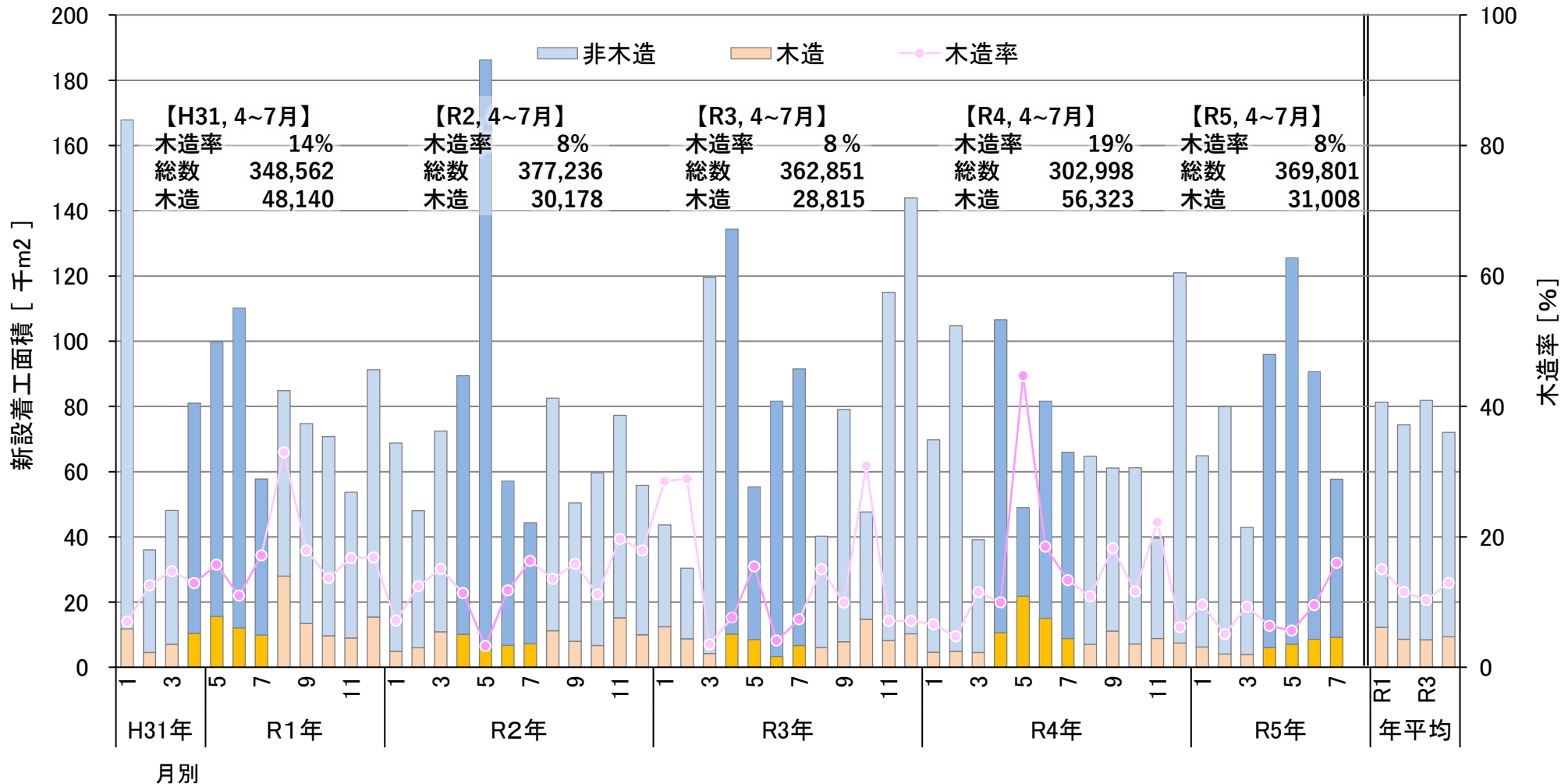
○ 岩手県の令和5年4～7月期の新設産業用建築物着工面積は、昨年同期より385,262㎡減少した。この期間の木造は9,913㎡減少し、木造率は8%増加した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

宮城県の新設産業用建築物着工面積の推移 (平成31年1月～令和5年7月)

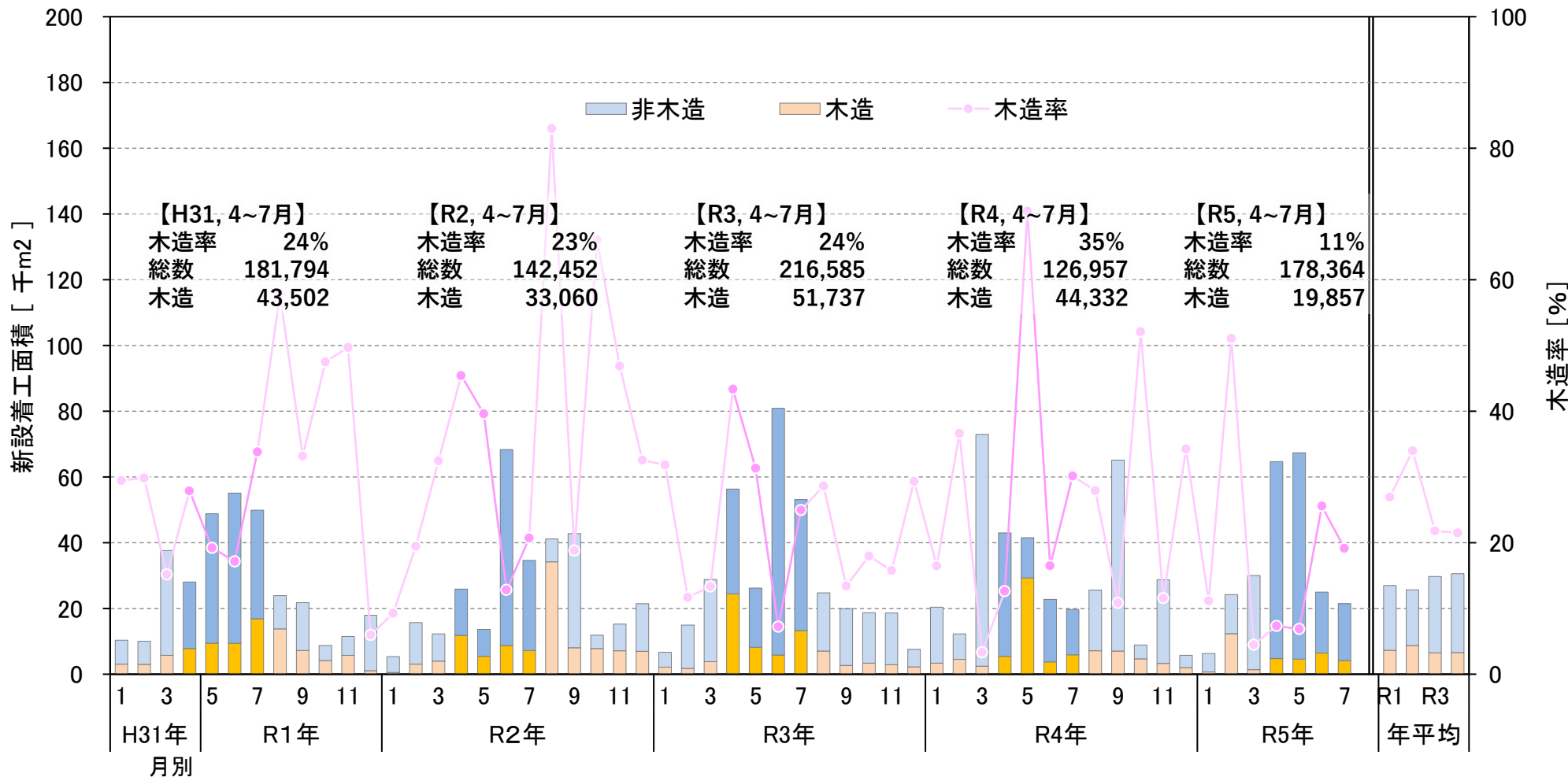
○ 宮城県の令和5年4～7月期の新設産業用建築物着工面積は、昨年同期より66,803㎡増加した。この期間の木造は25,315㎡減少し、木造率は11%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

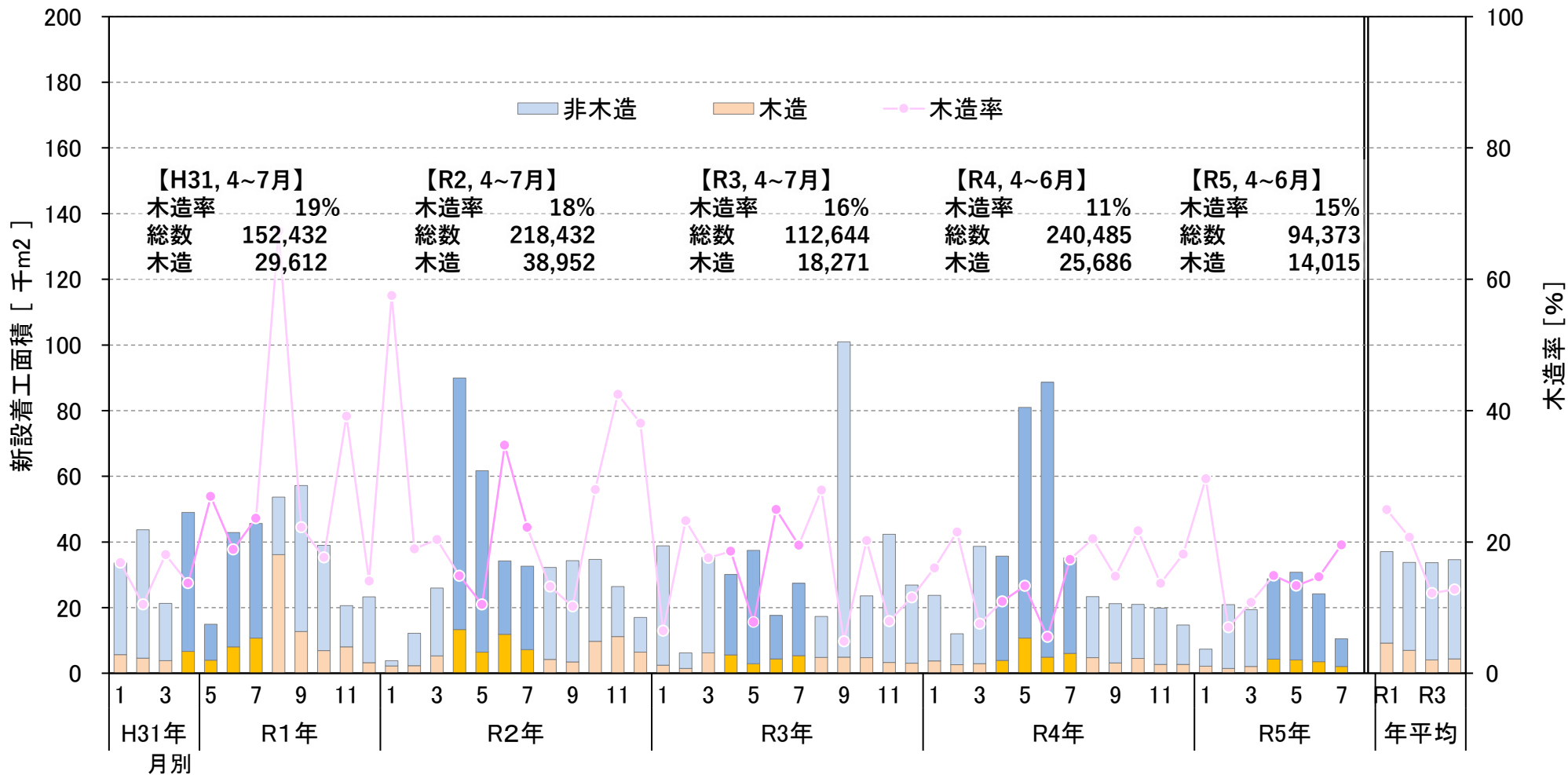
■ 秋田県の新設産業用建築物着工面積の推移 (平成31年1月～令和5年7月)

○ 秋田県の令和5年4～7月期の新設産業用建築物着工面積は、昨年同期より51,407㎡増加した。
この期間の木造は24,475㎡減少し、木造率は24%減少した。



山形県の新設産業用建築物着工面積の推移 (平成31年1月～令和5年7月)

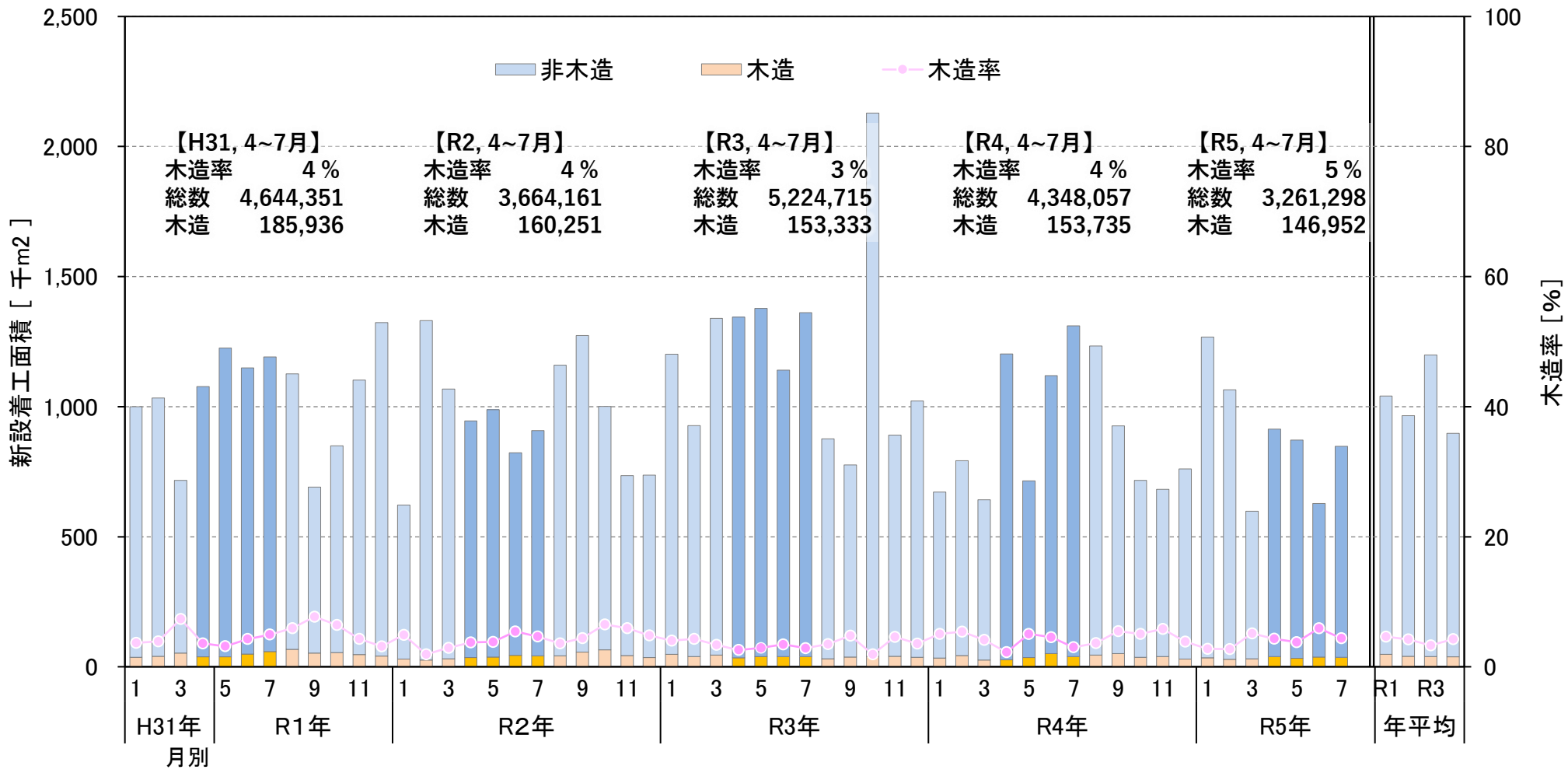
○ 山形県の令和5年4～7月期の新設産業用建築物着工面積は、昨年同期より146,112㎡減少した。この期間の木造は11,671㎡減少し、木造率は4%増加した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 埼玉、千葉、東京、神奈川の新設産業用建築物着工面積の推移 (平成31年1月～令和5年7月)

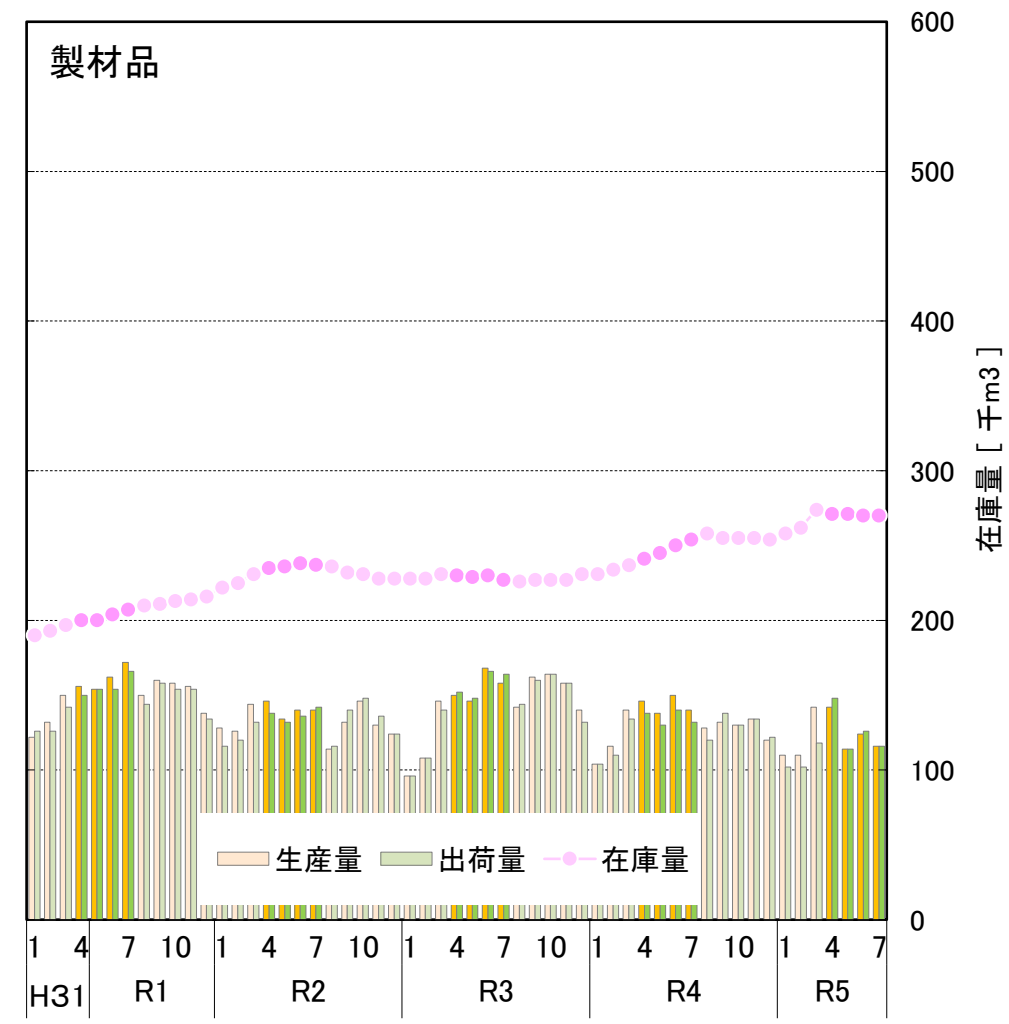
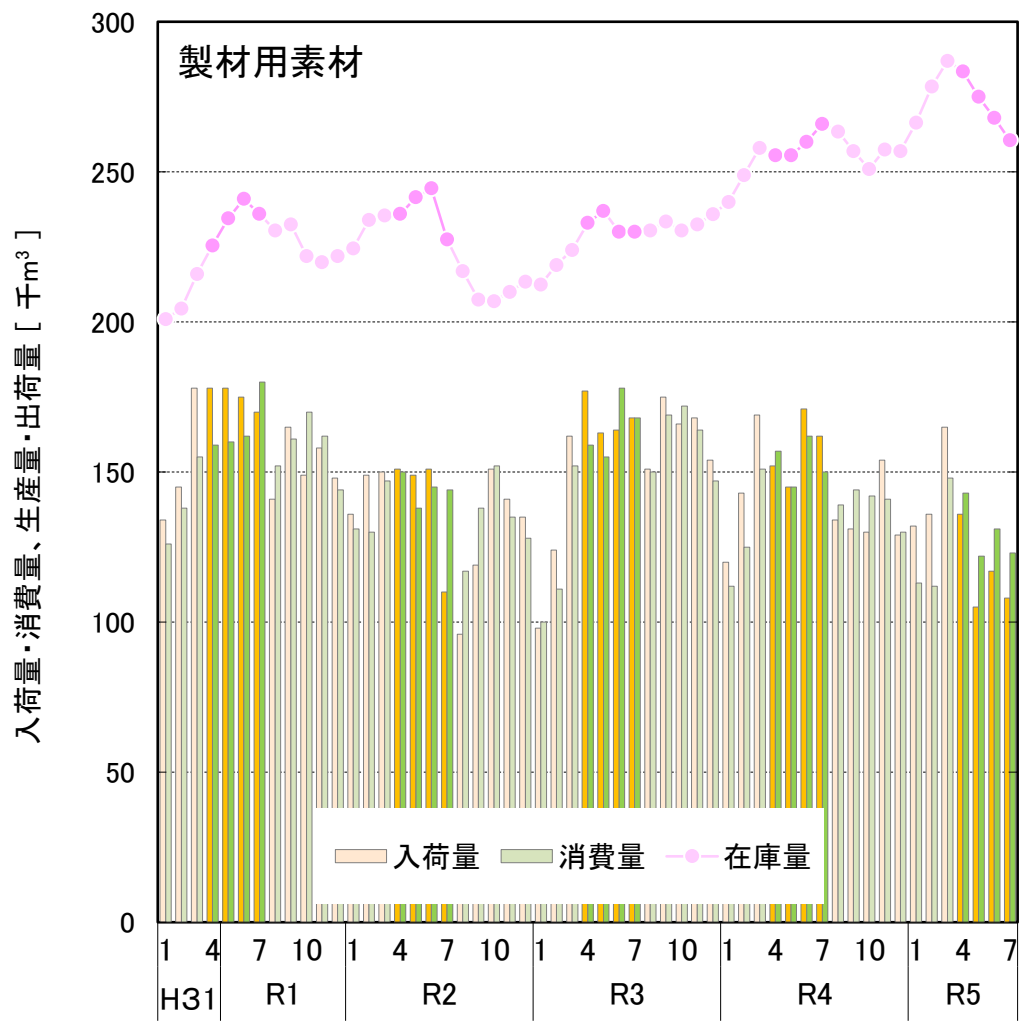
○ 関東主要都市の令和5年4～7月期の新設産業用建築物着工面積は、昨年同期より1,086,759㎡減少した。この期間の木造は6,783㎡減少し、木造率は1%増加した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

■ 東北5県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成31年1月～令和5年7月）

- 東北5県の製材用素材の令和5年4～7月の入荷量は昨年同期比-26%、消費量は-15%、在庫量は7月比-2%。
- 製材品の令和5年4～7月の生産量は昨年同期比-14%、出荷量は-7%、在庫量は7月比+6%。

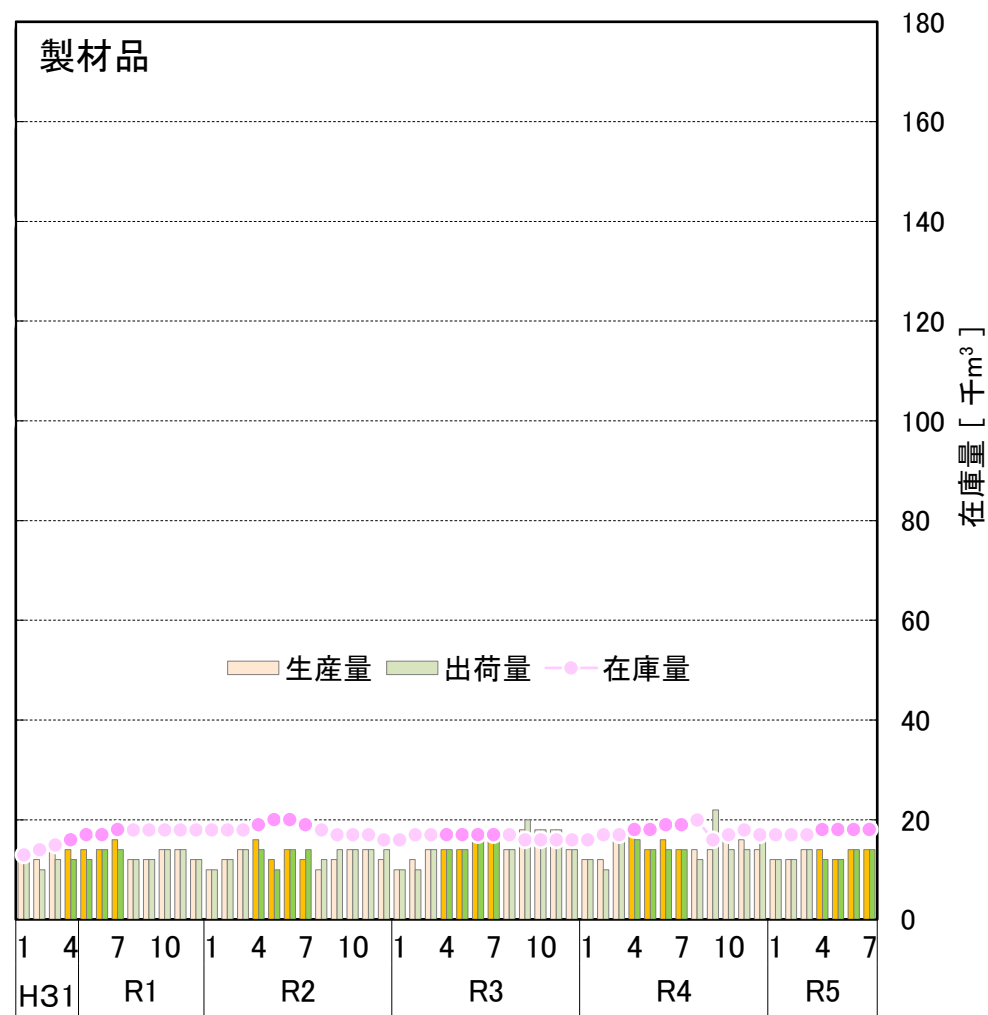
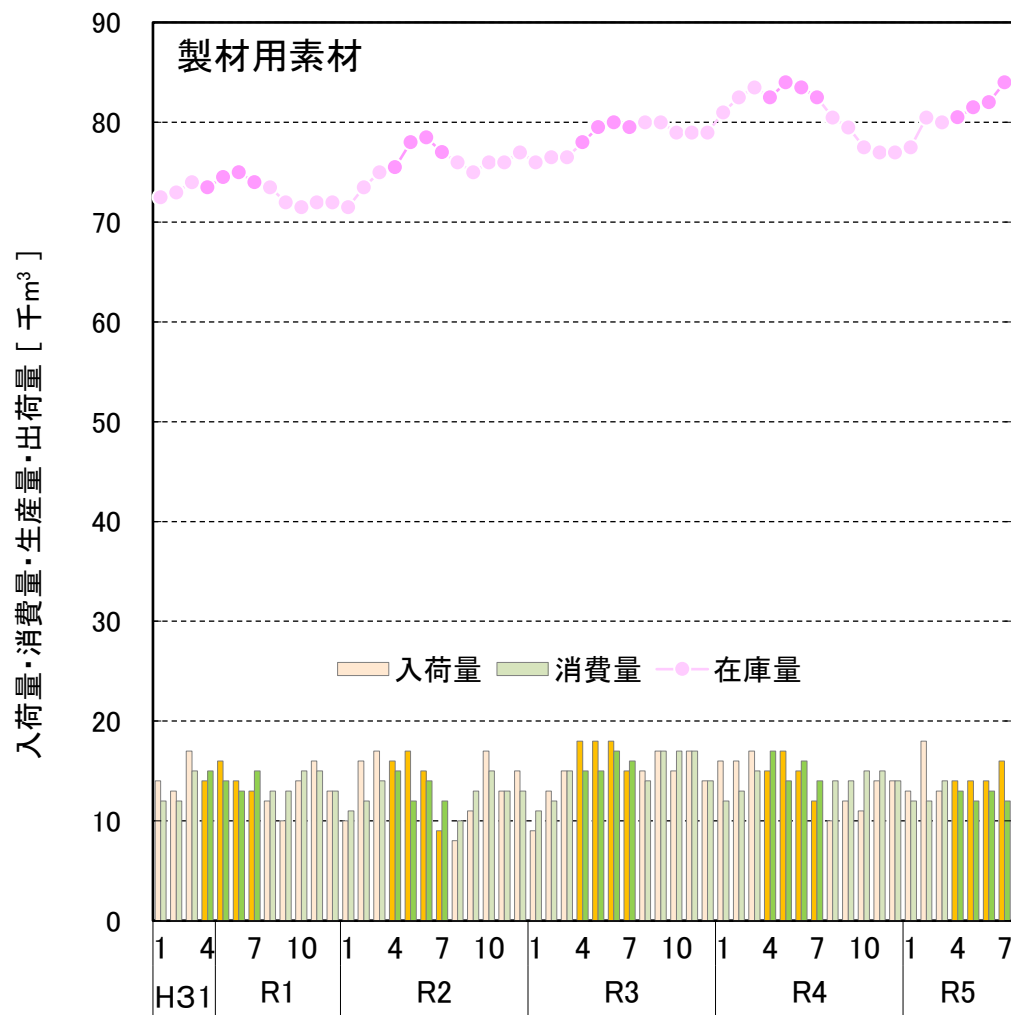


出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。

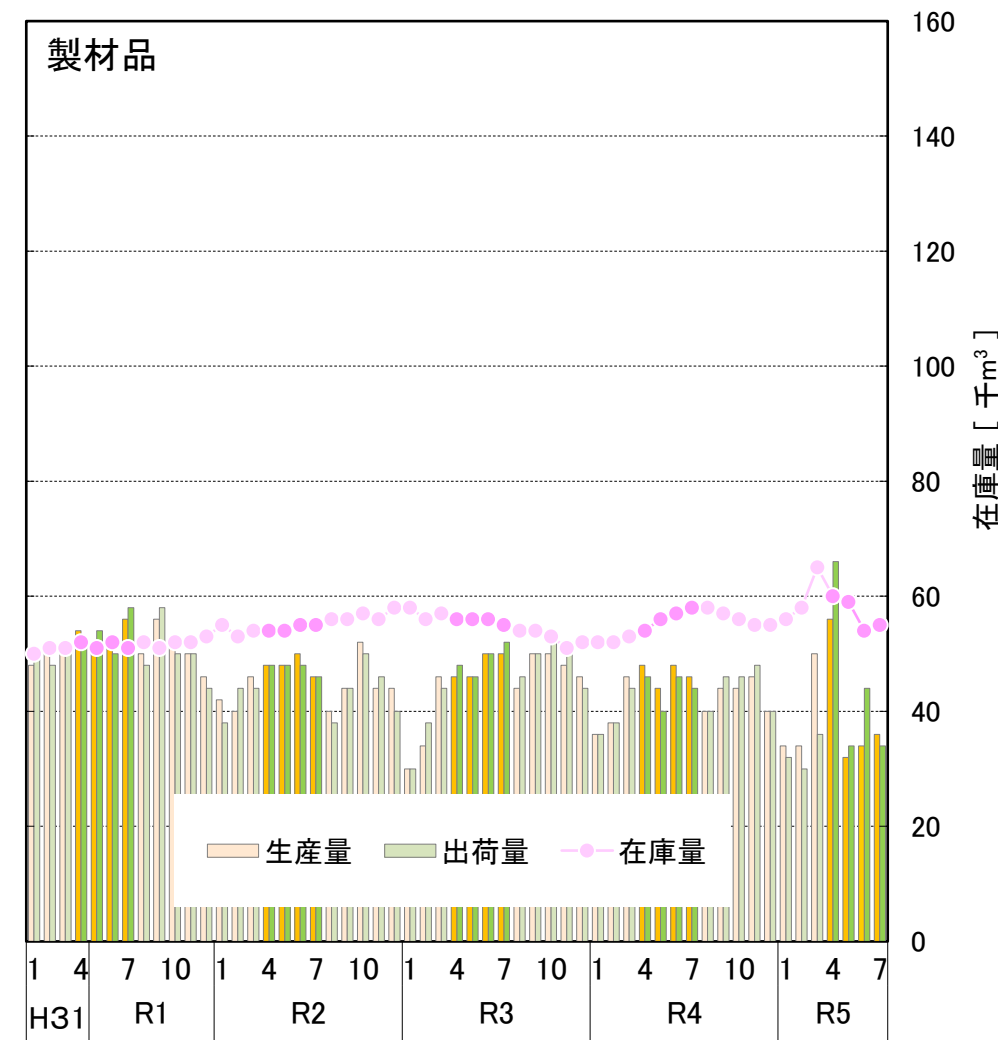
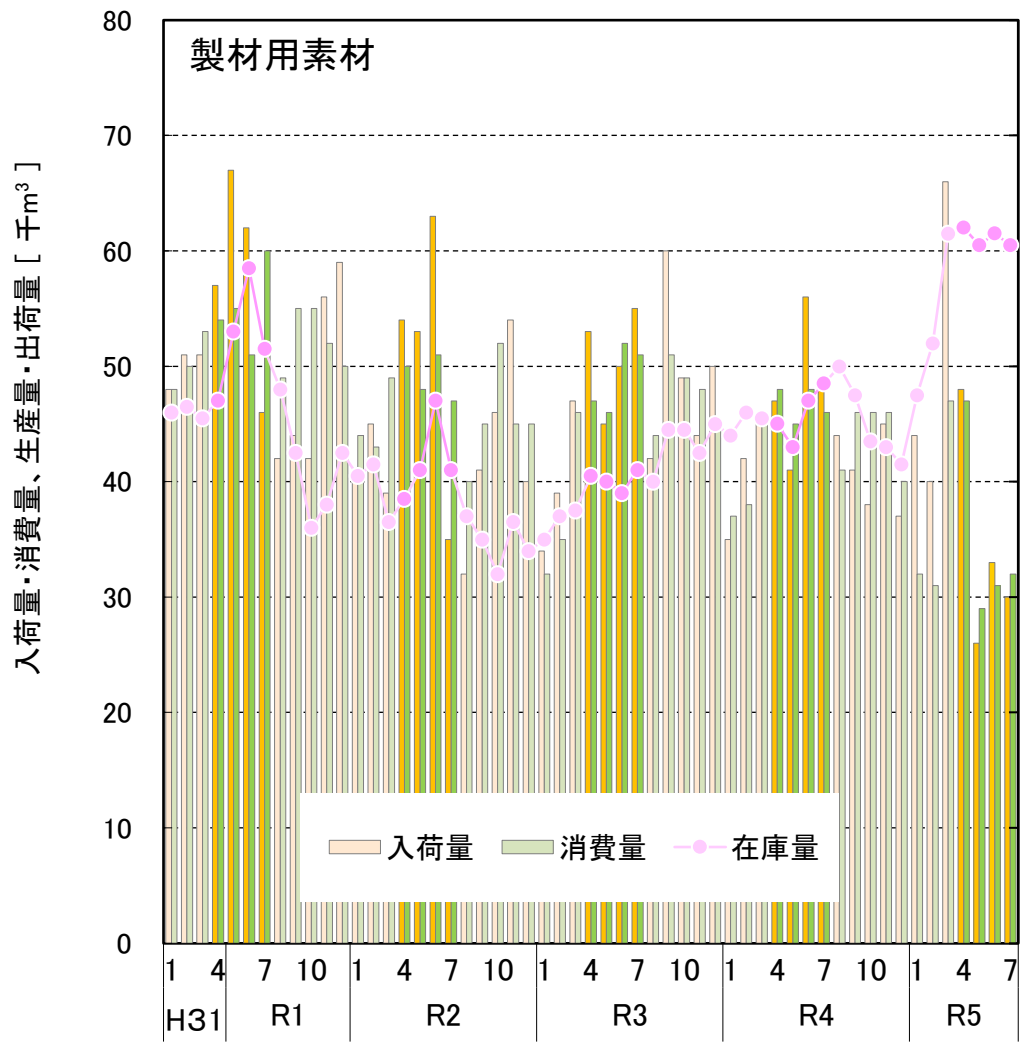
■ 青森県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成31年1月～令和5年7月）

- 製材用素材の令和5年4～7月の入荷量は昨年同期比－2%、消費量は－18%、在庫量は7月比＋2%。
- 製材品の令和5年4～7月の生産量は昨年同期比－13%、出荷量は－10%、在庫量は7月比－5%。



■ 岩手県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成31年1月～令和5年7月）

○ 製材用素材の令和5年4～7月の入荷量は昨年同期比－29%、消費量は－26%、在庫量は7月比＋25%。
 ○ 製材品の令和5年4～7月の生産量は昨年同期比－15%、出荷量は＋1%、在庫量は7月比－5%。

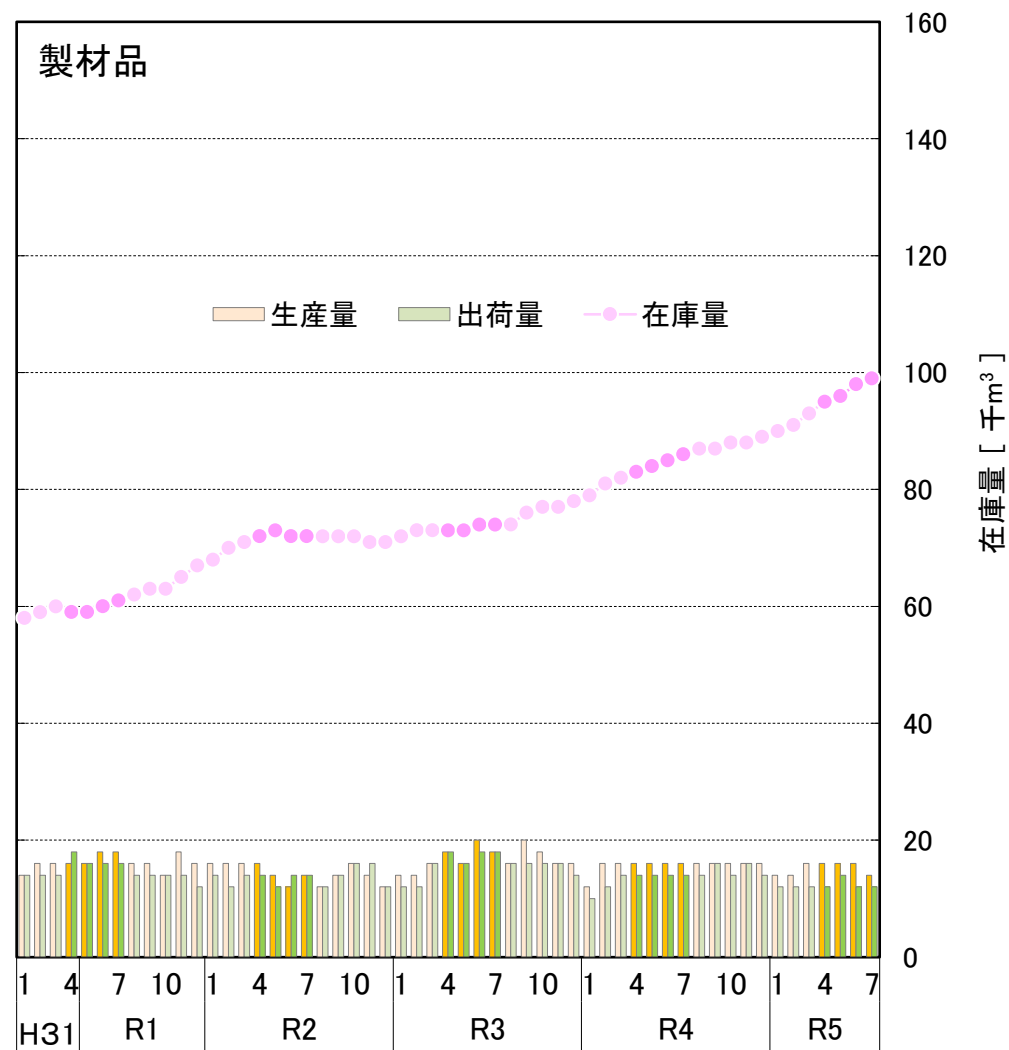
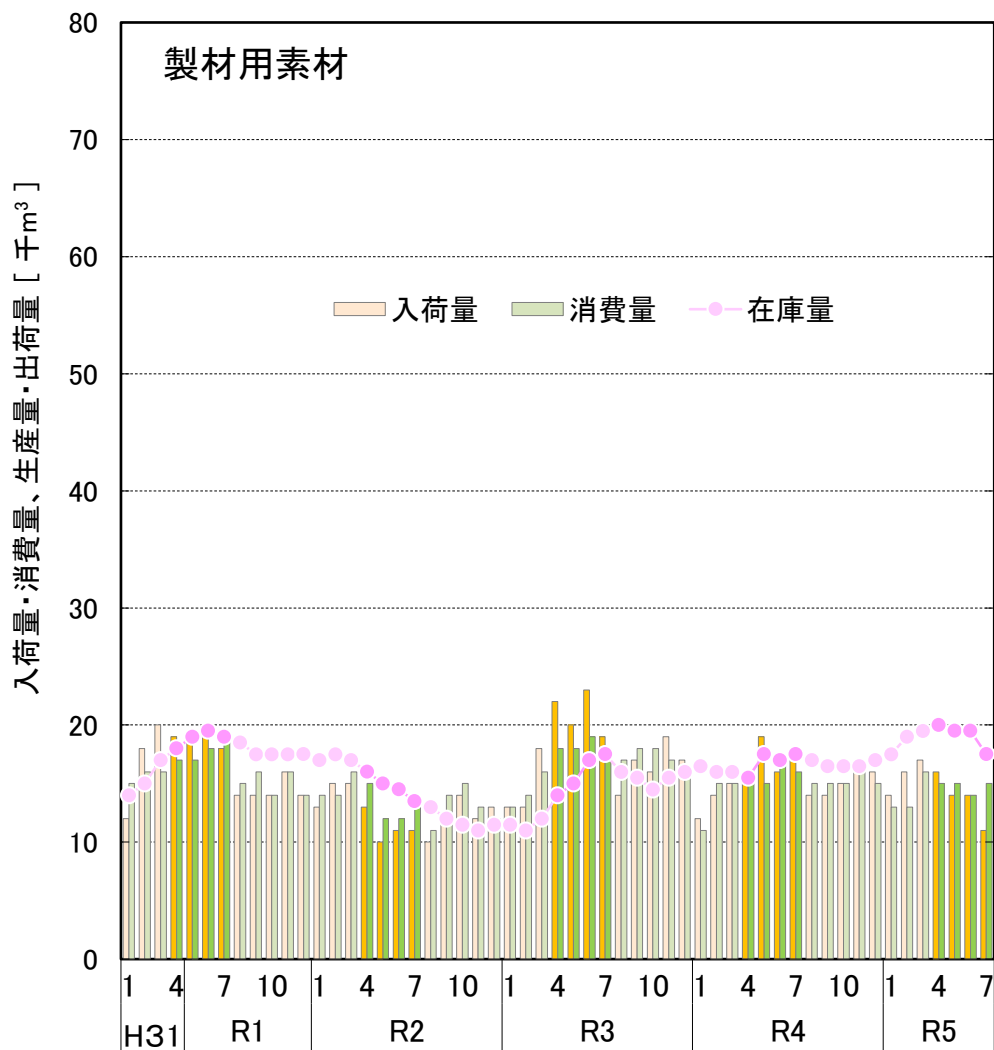


出典：農林水産省「木材需給報告書」製材統計

※ 国産材と外材の合計値である。

■ 宮城県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成31年1月～令和5年7月）

- 製材用素材の令和5年4～7月の入荷量は昨年同期比-18%、消費量は-8%、在庫量は6月比±0%。
- 製材品の令和5年4～7月の入荷量は昨年同期比-3%、消費量は-11%、在庫量は7月比+15%。

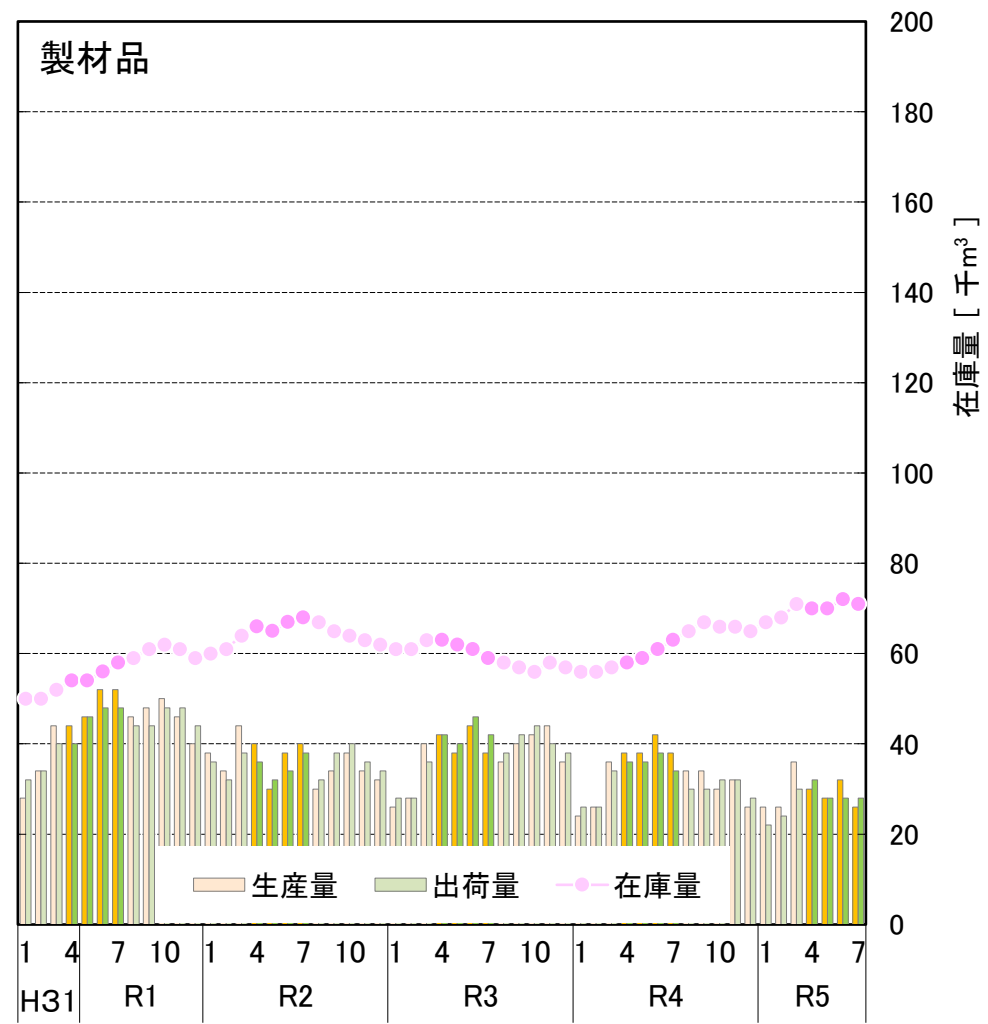
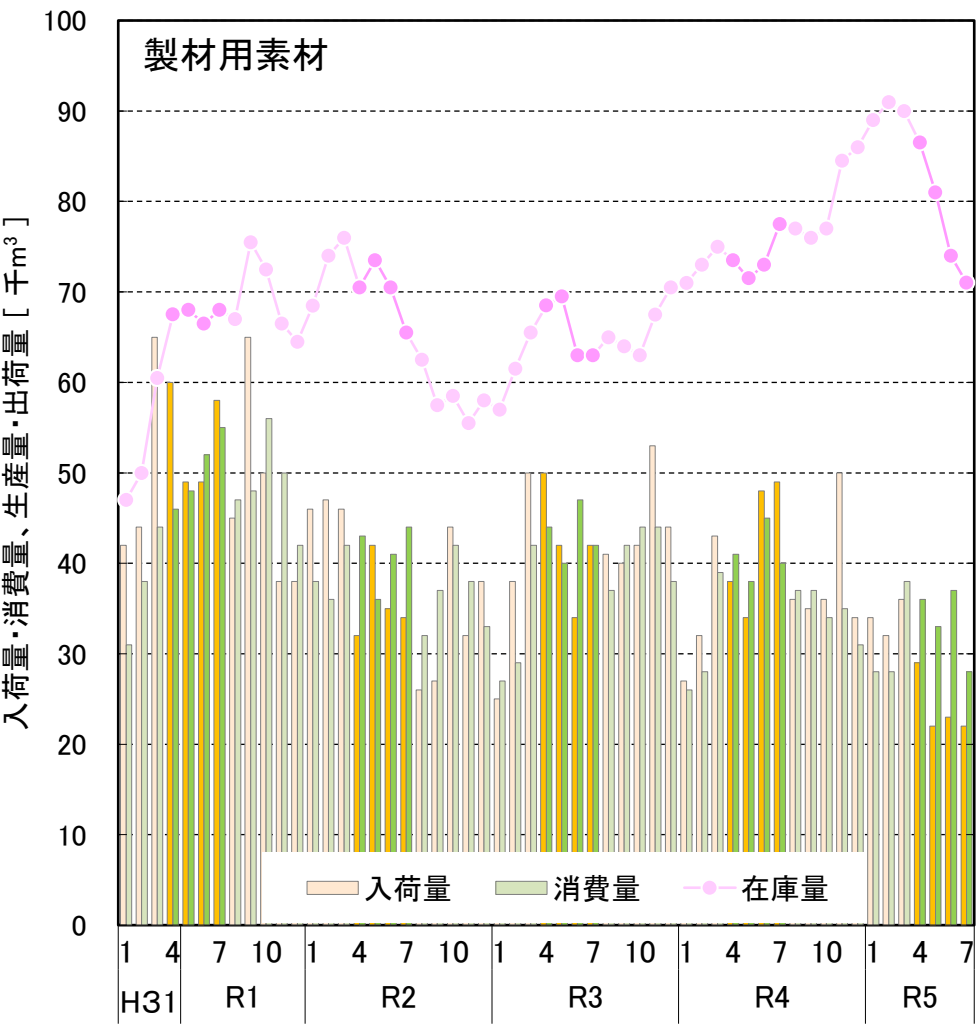


出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。

秋田県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成31年1月～令和5年7月）

○ 製材用素材の令和5年4～7月の入荷量は昨年同期比-43%、消費量は-18%、在庫量は7月比-8%。
 ○ 製材品の令和5年4～7月の入荷量は昨年同期比-26%、消費量は-19%、在庫量は7月比+13%。

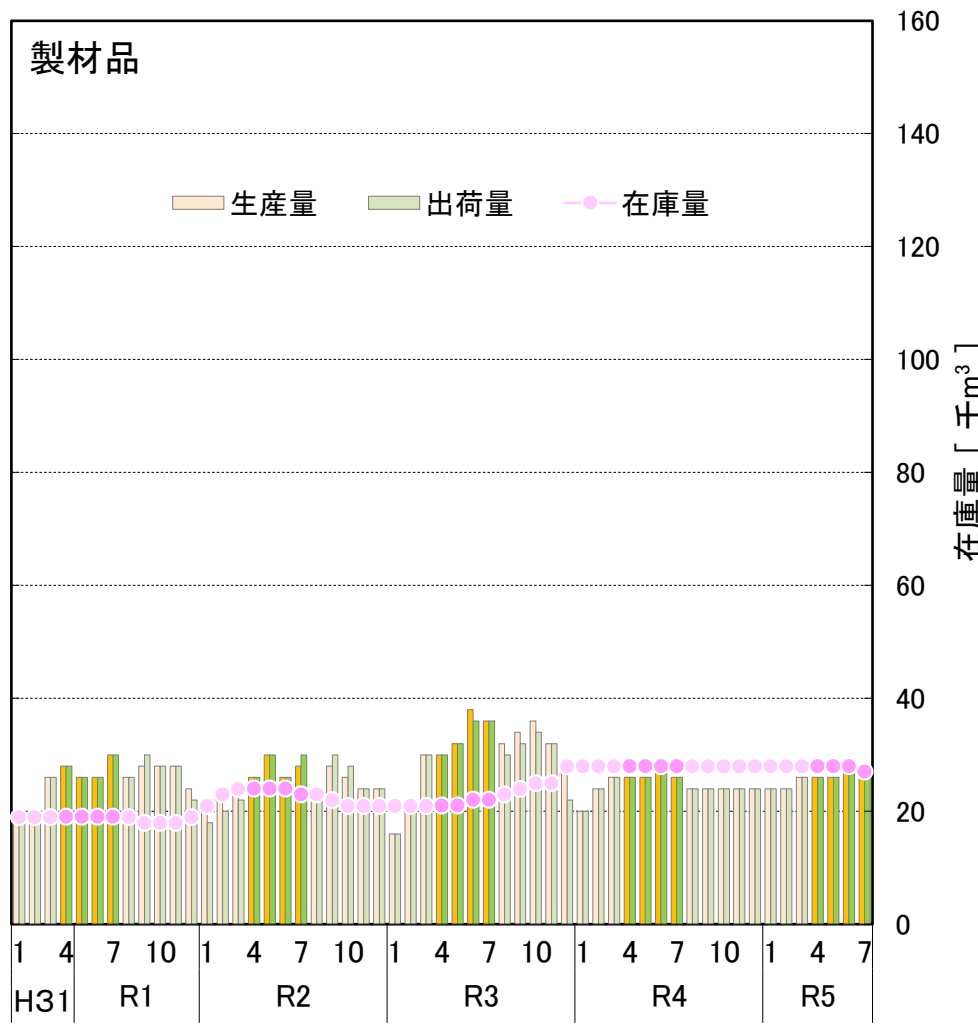
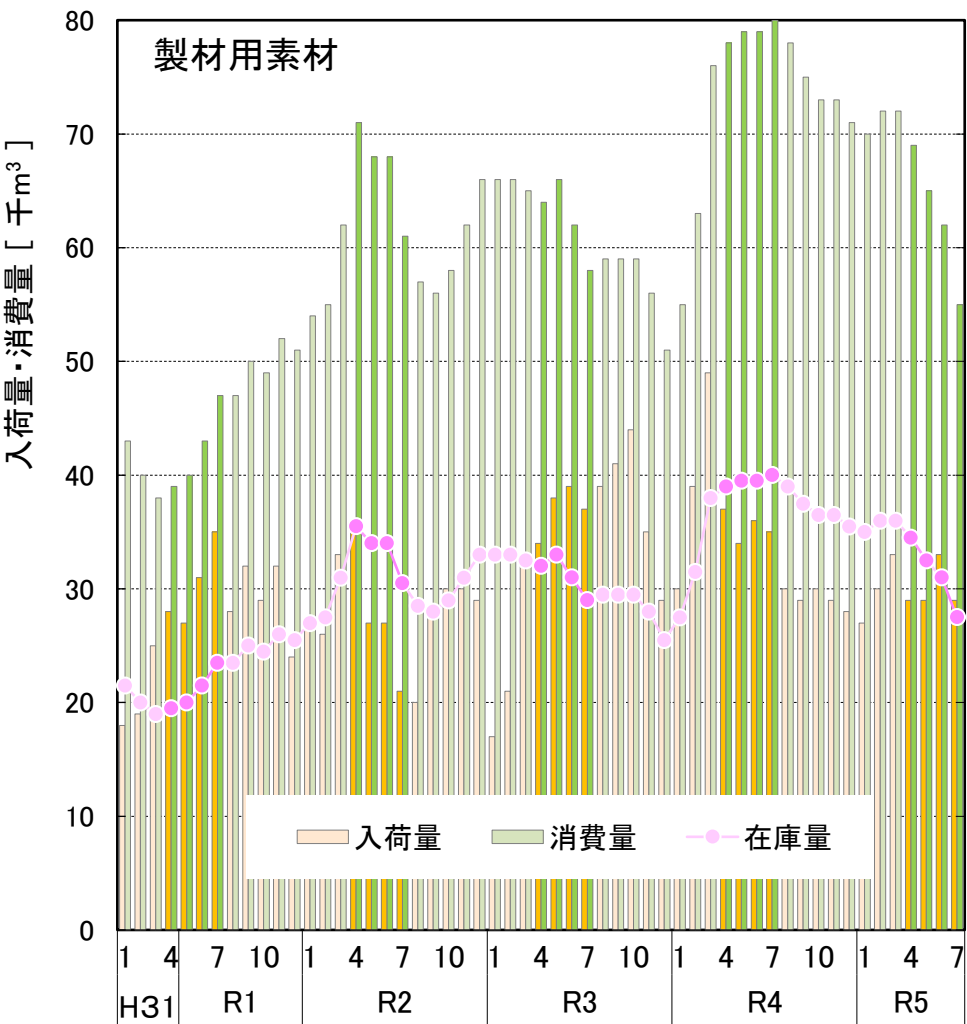


出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。

山形県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成31年1月～令和5年7月）

○ 製材用素材の令和5年4～7月の入荷量は昨年同期比-15%、消費量は-1%、在庫量は7月比-31%。
 ○ 製材品の令和5年4～7月の入荷量は昨年同期比±0%、消費量は+2%、在庫量は7月比-4%。

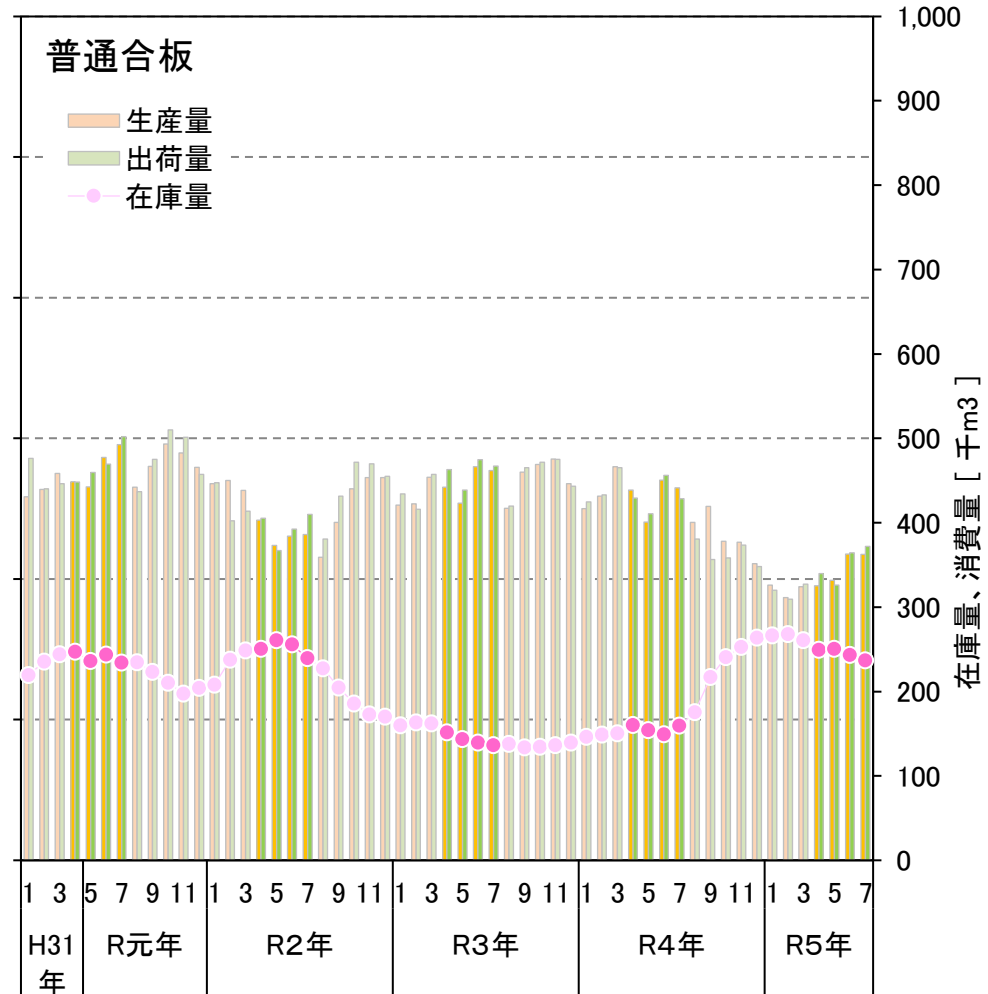
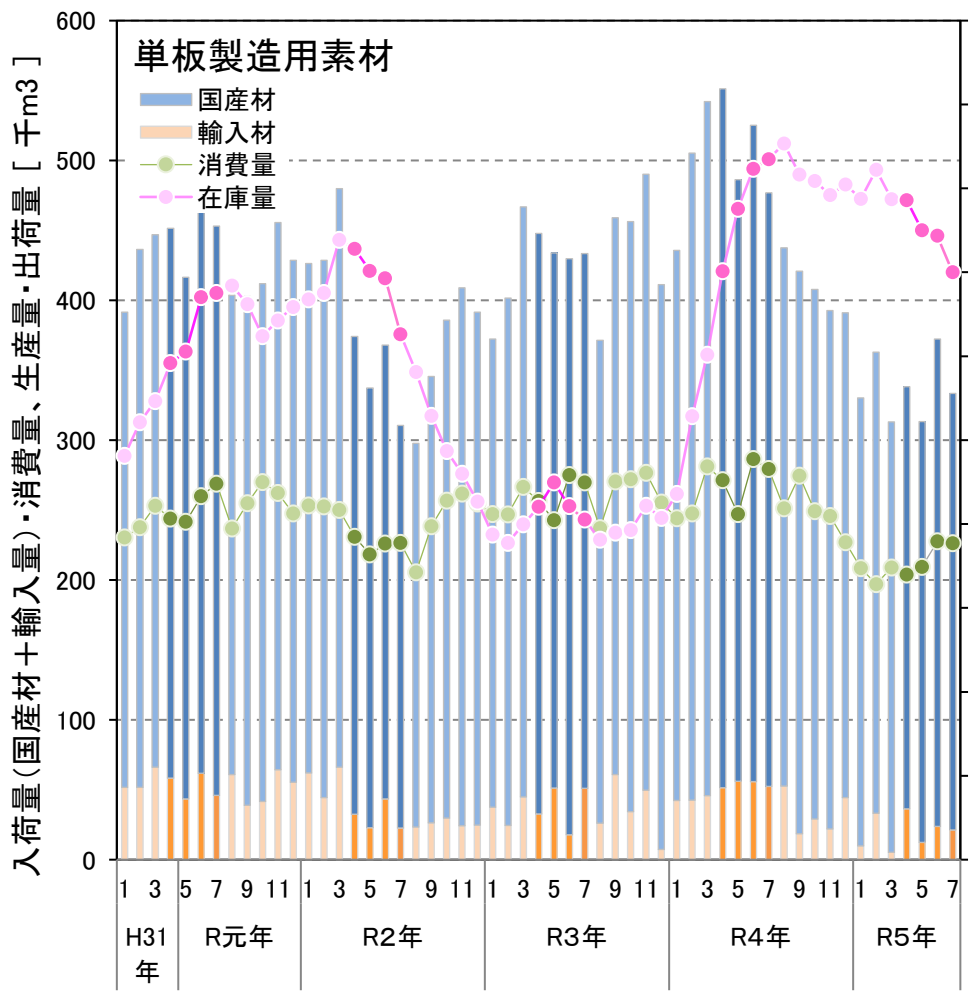


出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。

■ 全国の単板製造用素材・普通合板の生産量等の推移（平成31年1月～令和5年7月）

- 単板製造用素材の令和5年4～7月期の入荷量は昨年同期比－33%、うち国産材は－31%、消費量は－20%、在庫量は7月比－16%。
- 普通合板の令和5年4～7月期の生産量は昨年同期比－20%、出荷量は－19%、在庫量は7月比＋49%。



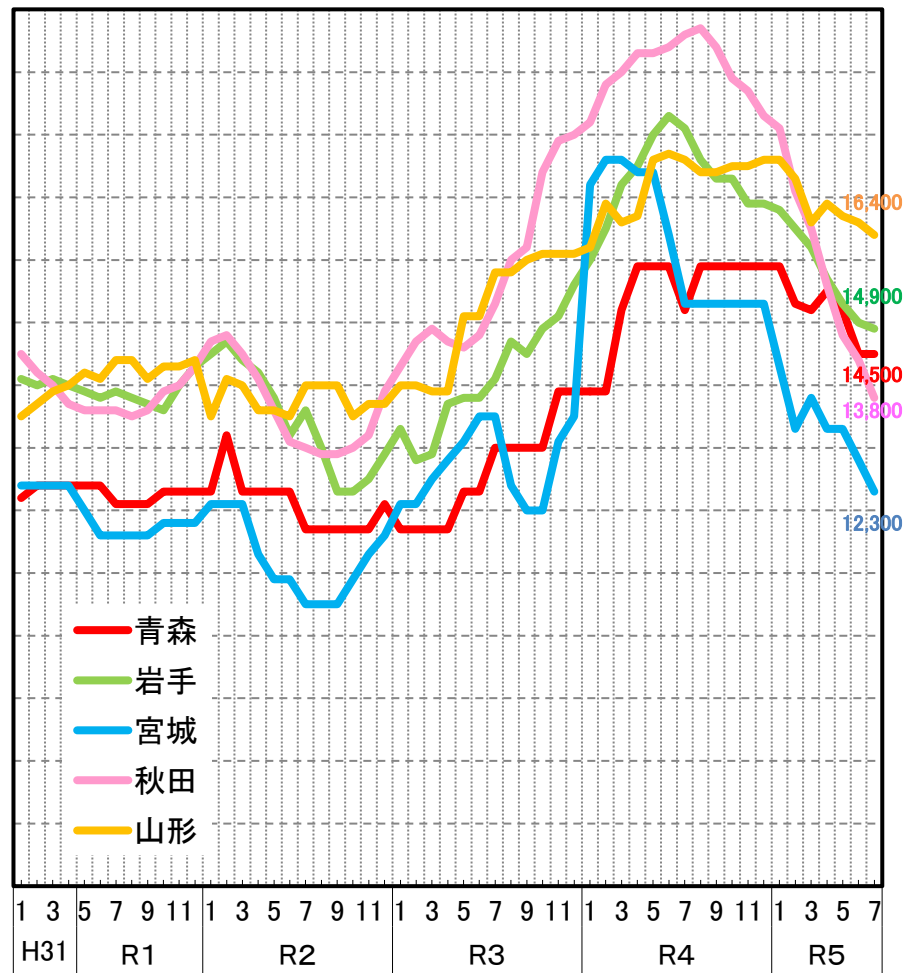
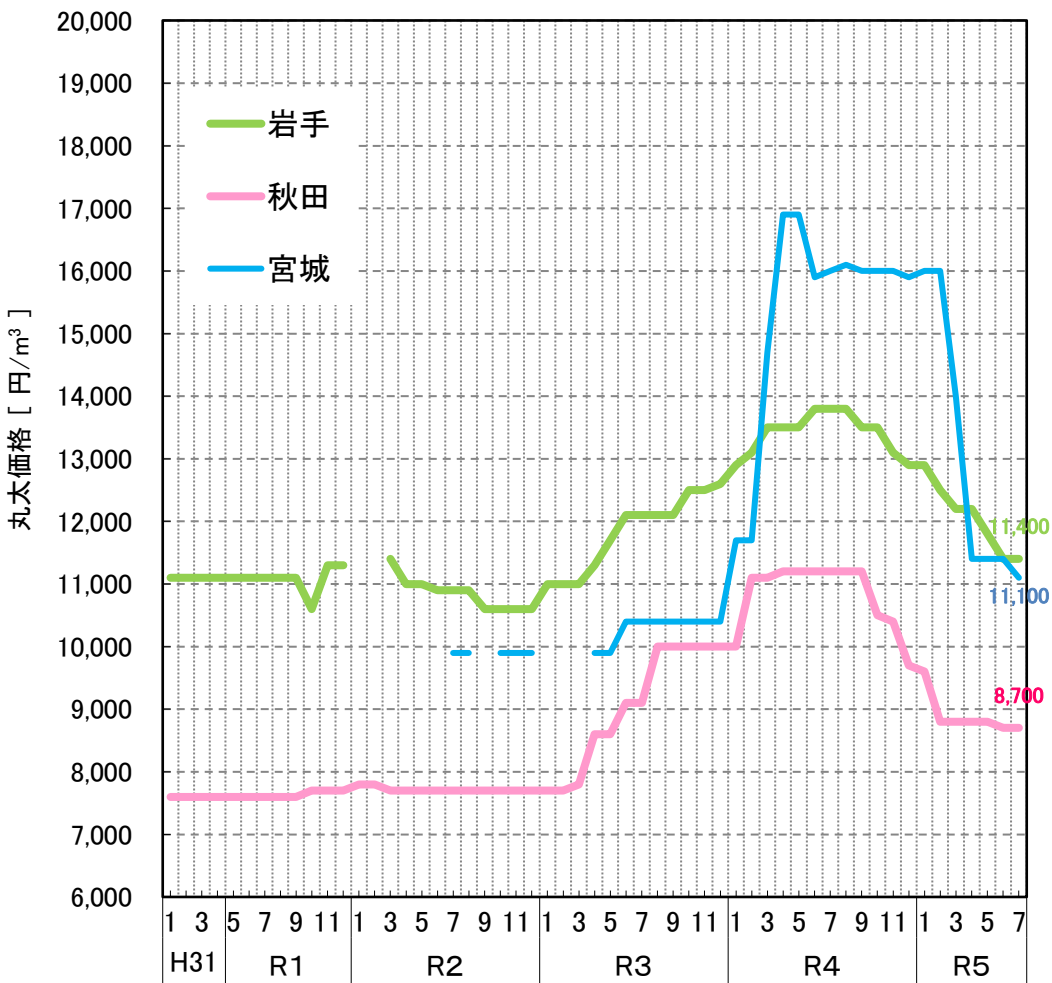
出典：農林水産省「合板統計」

■ すぎ丸太価格の推移 (平成31年1月～令和5年7月)

○ すぎは小丸太価格も中丸太価格ともに、各県ピーク時から値下がり。

すぎ小丸太 3.65～4.00m (8～13cm)

すぎ中丸太 3.65～4.00m (24～28cm)

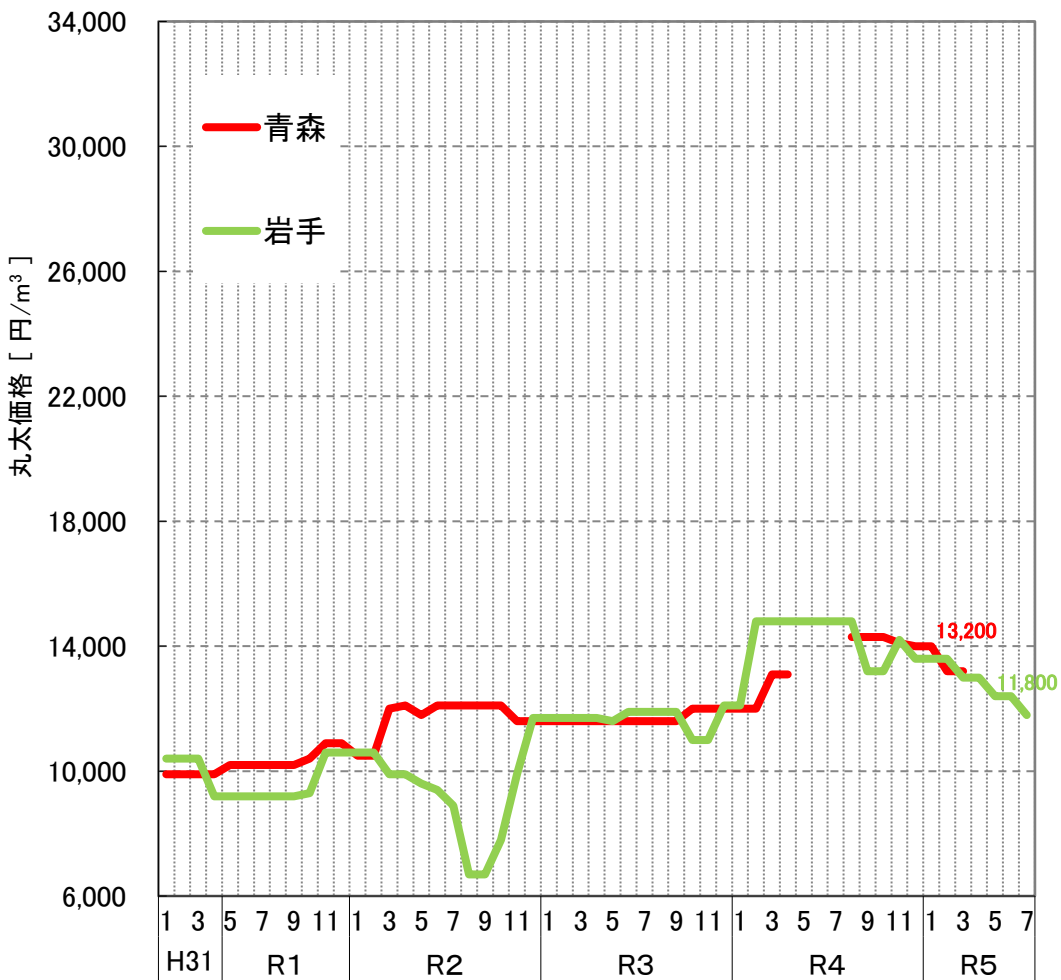


出典: 農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」 ※ 工場着価格。

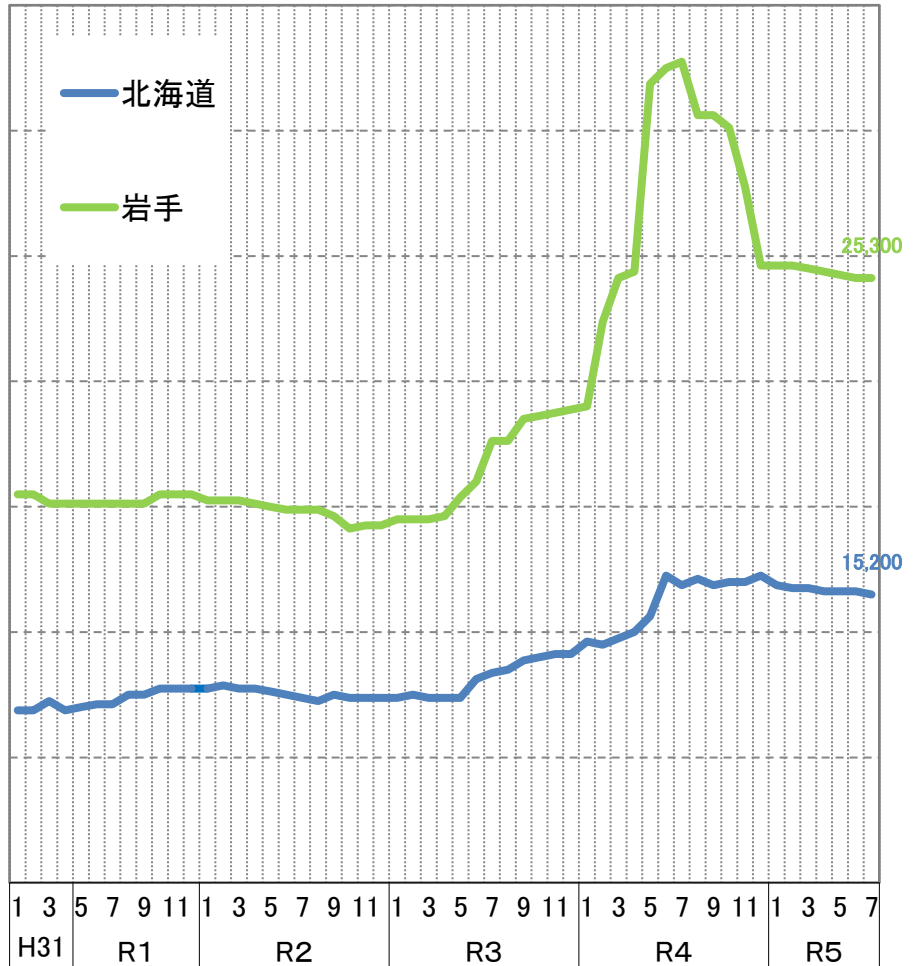
■ まつ・からまつ丸太価格の推移 (平成31年1月～令和5年7月)

○ まつ中丸太価格は青森、岩手とも弱含み。
 ○ からまつ丸太価格は、岩手でピーク時より値下がり。岩手と北海道の価格差は10,100円。

まつ中丸太 3.65～4.00m (24～28cm)



からまつ中丸太 3.65～4.00m (24～28cm)

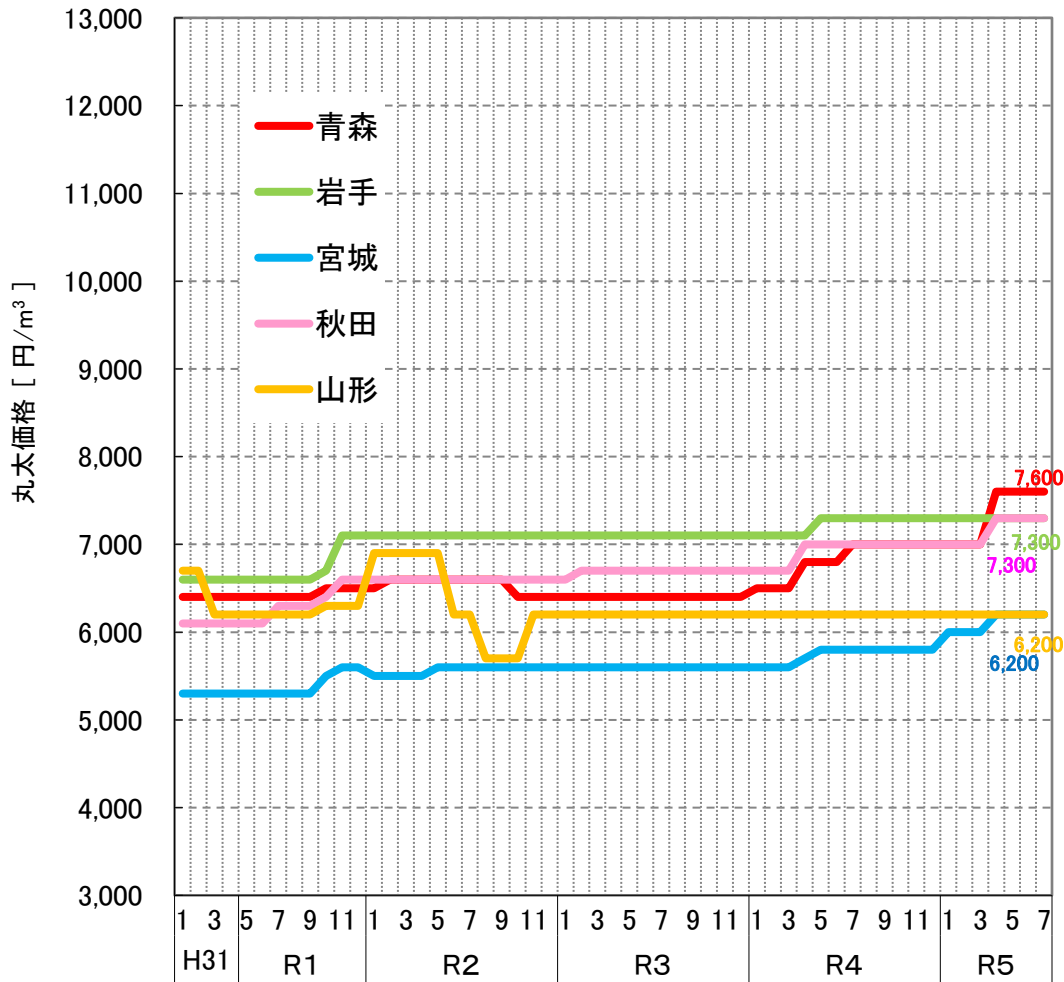


出典:農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」 ※ 工場着価格。

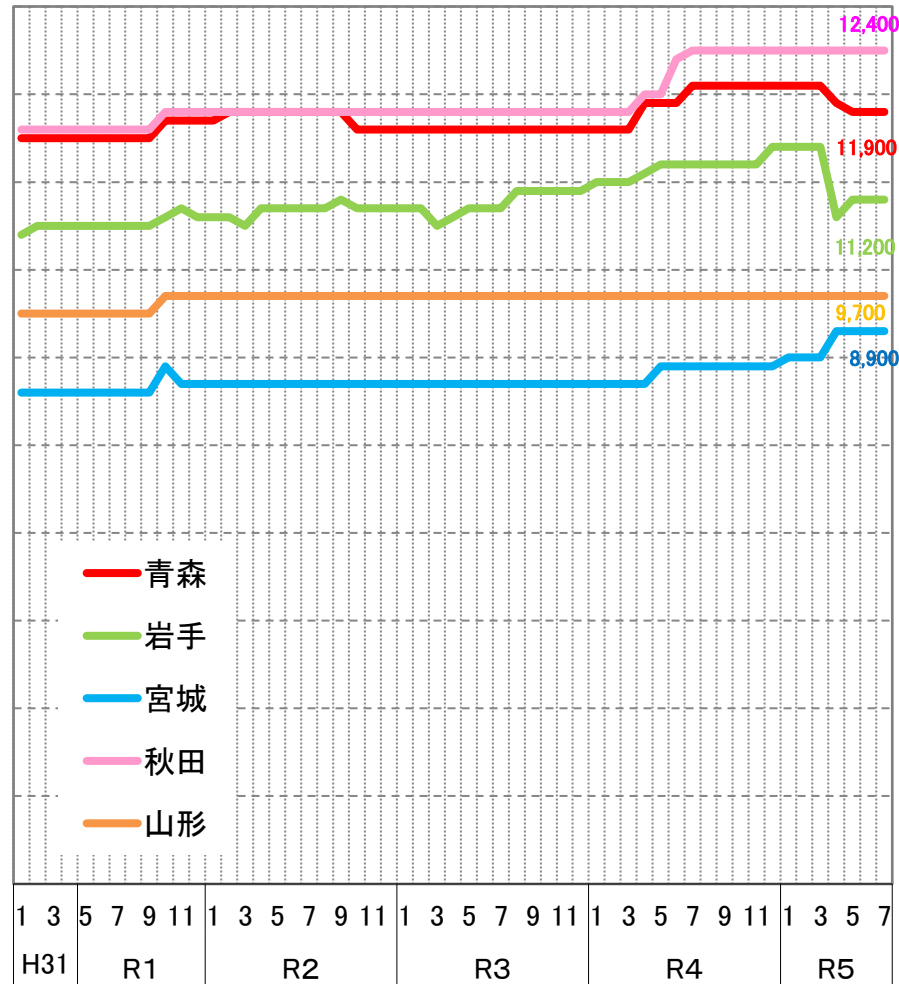
■チップ用丸太価格の推移（平成31年1月～令和5年7月）

○ チップ用丸太価格は針葉樹・広葉樹とも保合。

針葉樹材



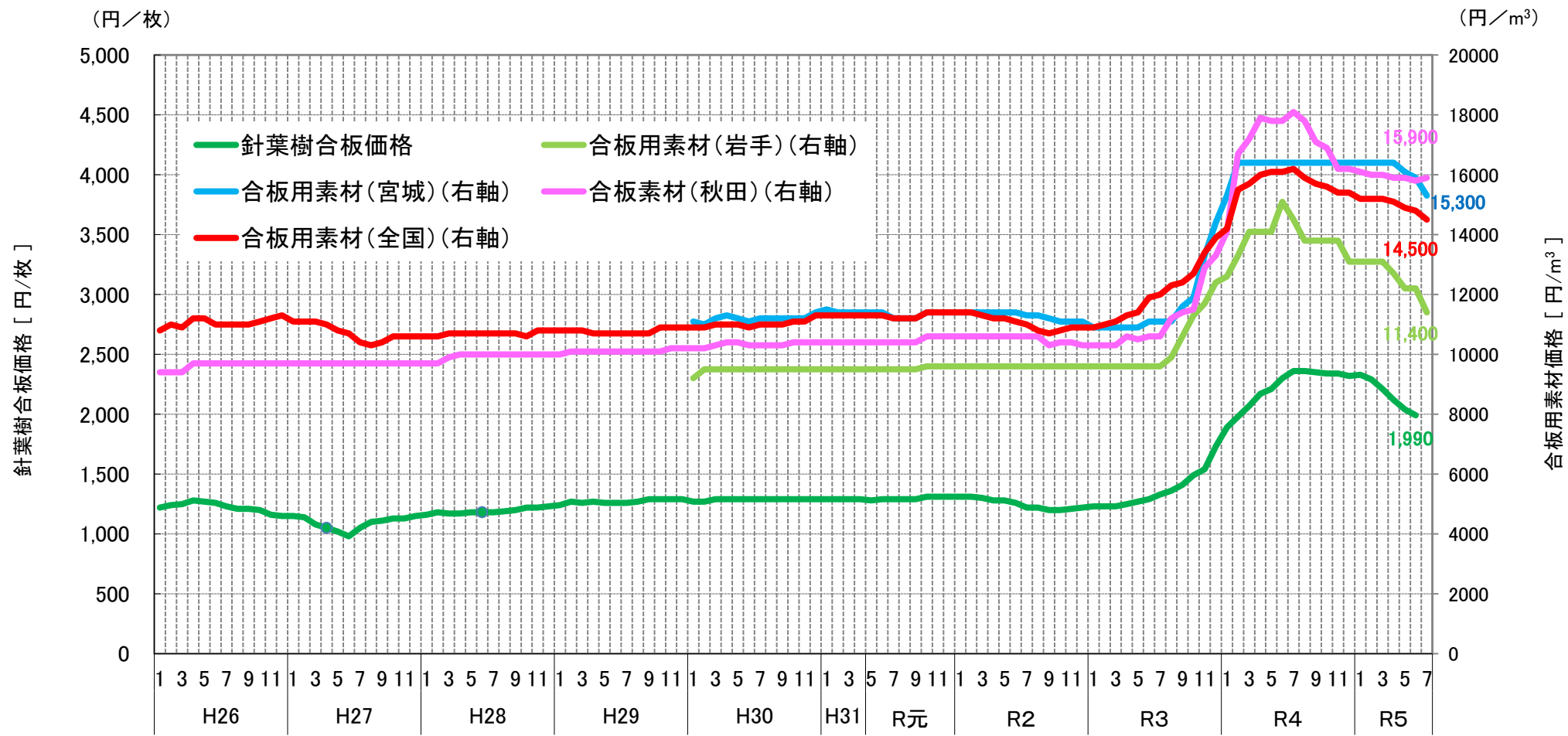
広葉樹材



出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」 ※ 工場着価格。

針葉樹合板及び合板用素材価格の推移 (平成26年1月～令和5年7月)

○ 針葉樹合板価格は、1990円/枚。
 ○ 合板用素材価格は、全県でピーク時より値下がり。



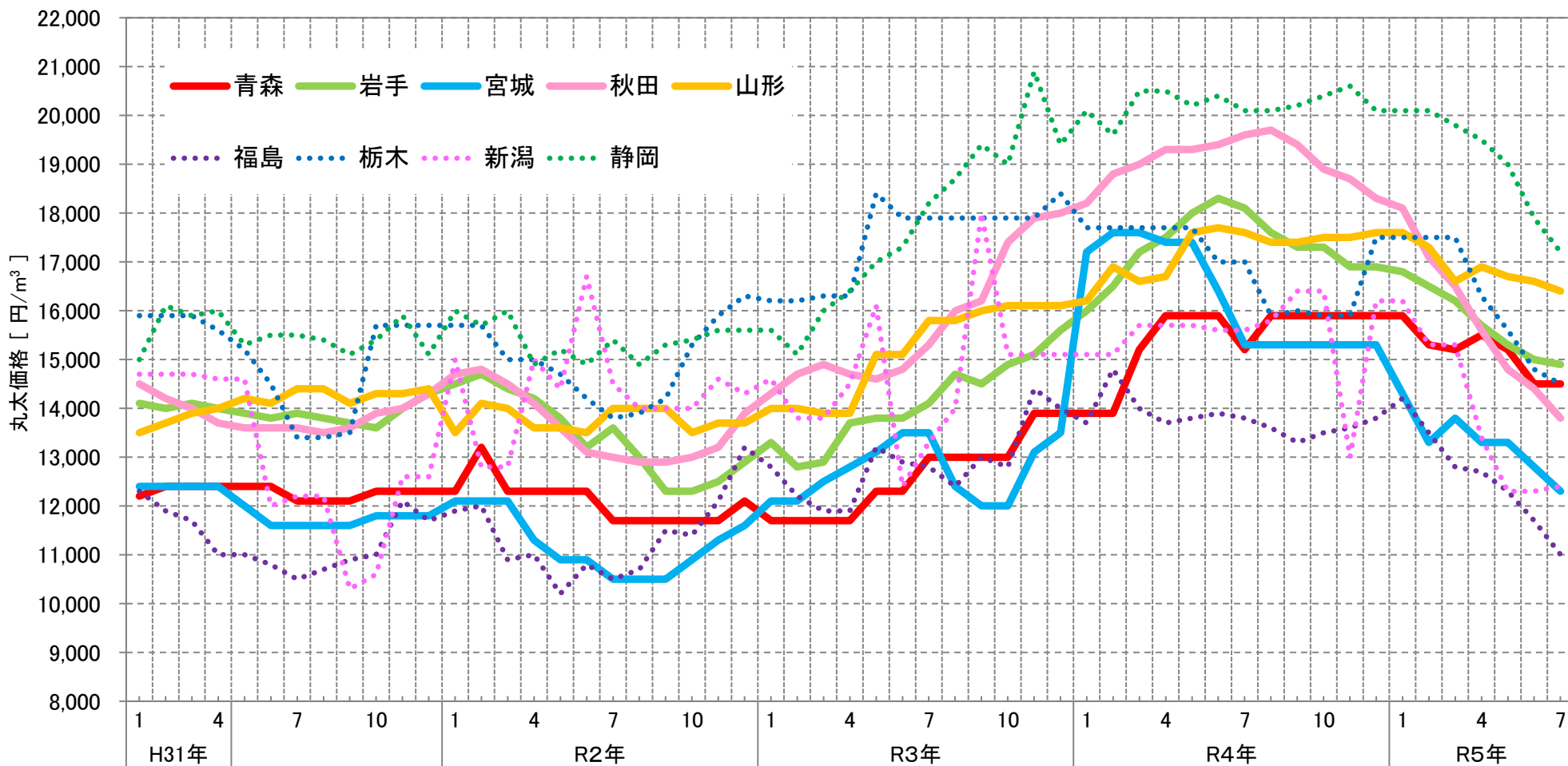
針葉樹合板: 厚さ1.2cm、幅91.0cm、長1.82m、1類

出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」
 ※ 平成30年1月に調査都道府県、調査対象工場の見直しを行ったことから、平成29年12月以前の数値とは接続しない。
 ※ 針葉樹合板価格は、木材市売市場、木材センター及び木材卸売業者における小売業者への店頭渡し価格。合板用素材価格は、合単板工場着購入価格である。

■ 関東地方との木材価格の比較 (平成31年1月～令和5年7月)

○ すぎ中丸太の価格は関東、東北ともにピーク時よりも値下がりしている。

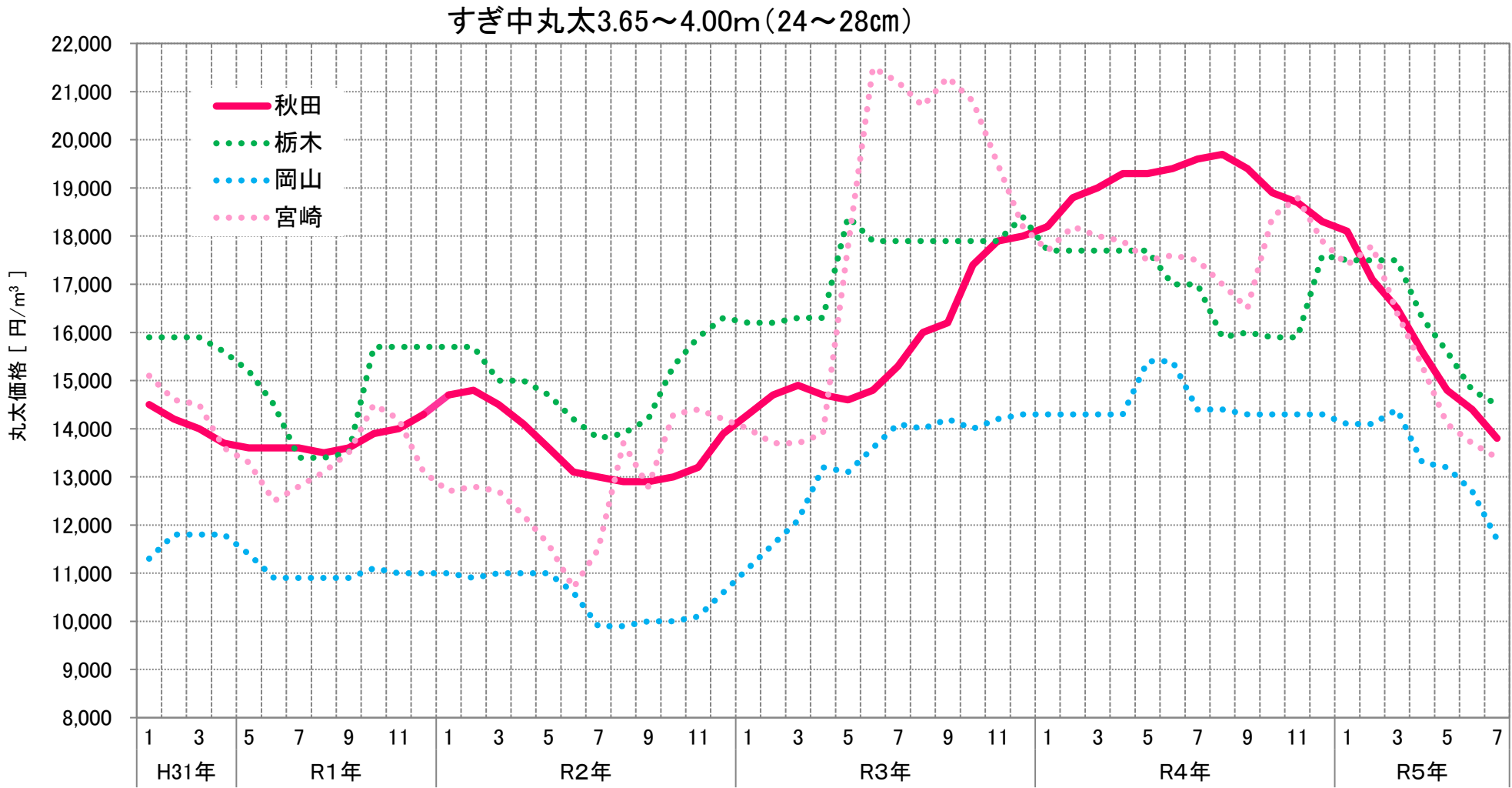
すぎ中丸太 3.65～4.00m (24～28cm)



出典: 農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」 ※ 工場着価格。

■ 関東、関西、九州地方との木材価格の比較 (平成31年1月～令和5年7月)

○ 各県ともピーク時より値下がり。

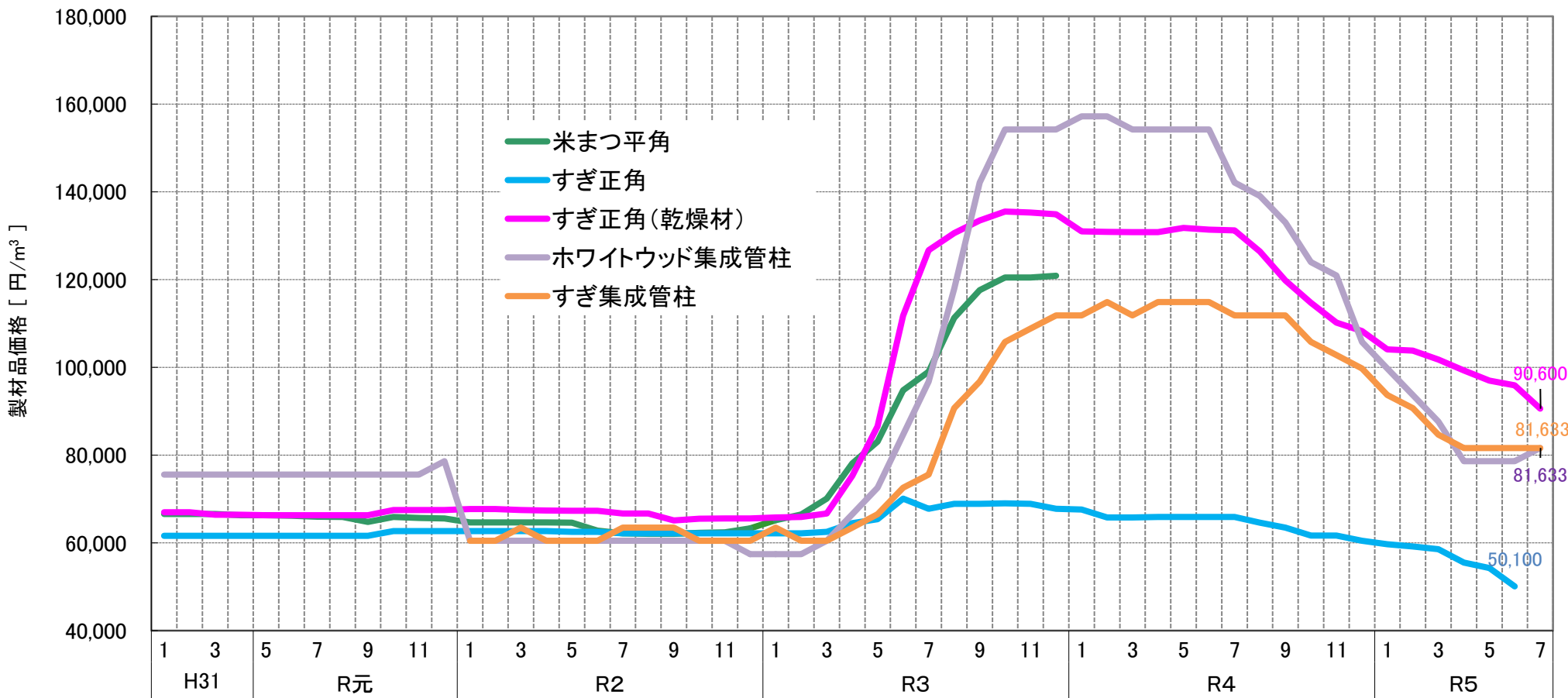


出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」 ※ 工場着価格。

■ 全国の製材品主要品目価格の推移 (平成31年1月～令和5年7月)

○ 各製品ともピーク時より値下がり。

Wウッド集成管柱とすぎ集成管柱の価格は4月より横ばいであり、下げ止まりの可能性。



出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」

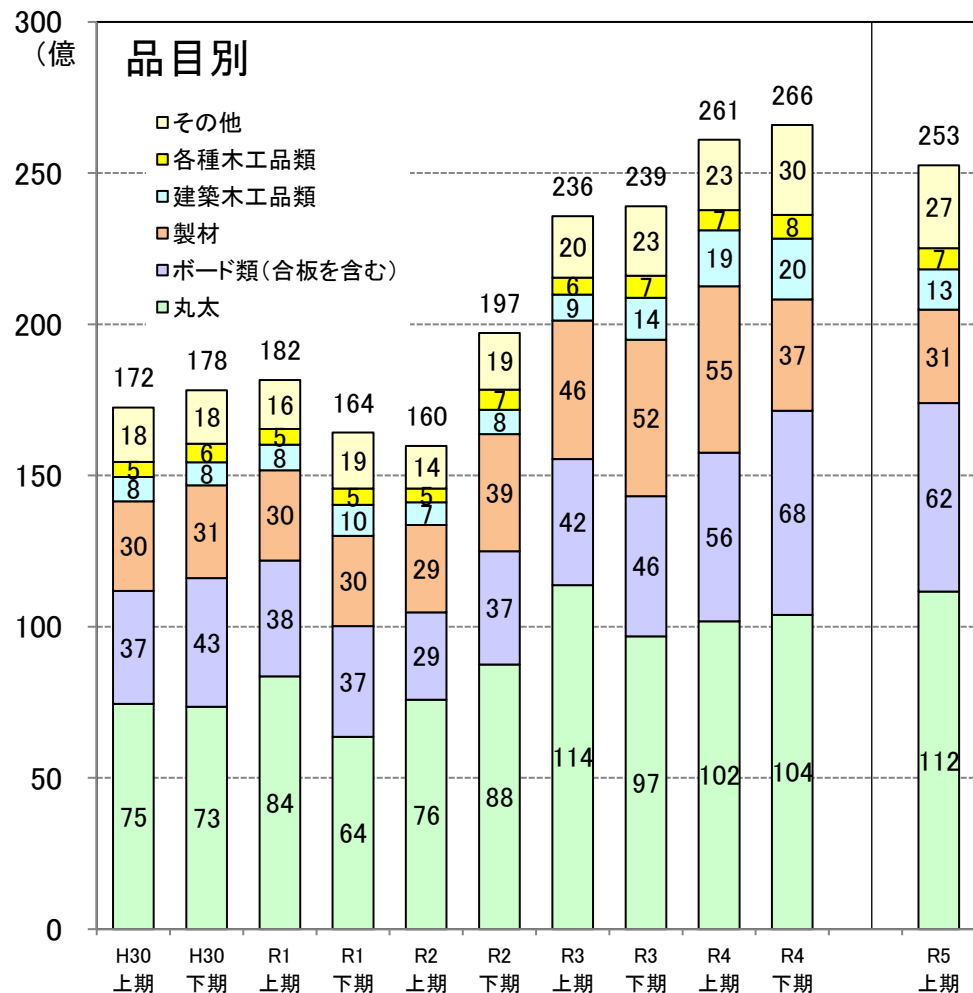
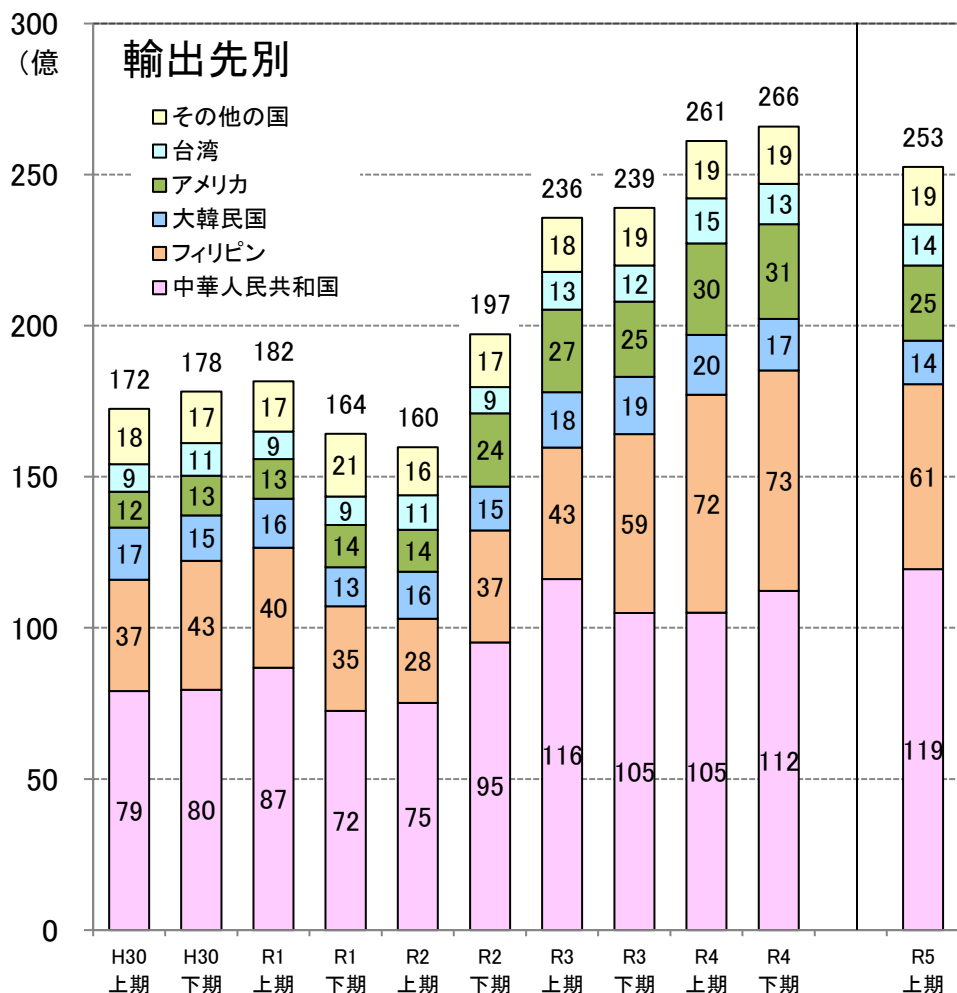
※1 価格は、令和2年1月以降のホワイトウッド集成管柱及びすぎ集成管柱は集成材工場出荷時の販売価格、それ以外は木材市売市場、木材センター及び木材卸売業者における小売業者への店頭渡し価格となる。

※2 令和2年1月から、ホワイトウッド集成管柱は規格及び調査都道府県、調査対象工場の見直しを行い、調査価格も※1の通り変更となったことから、令和元年12月以前の数値とは接続しない。

※3 令和4年1月調査から、米まつ平角の製材品価格の把握は廃止された。

■ 輸出先別及び品目別の木材輸出額の推移（全国）

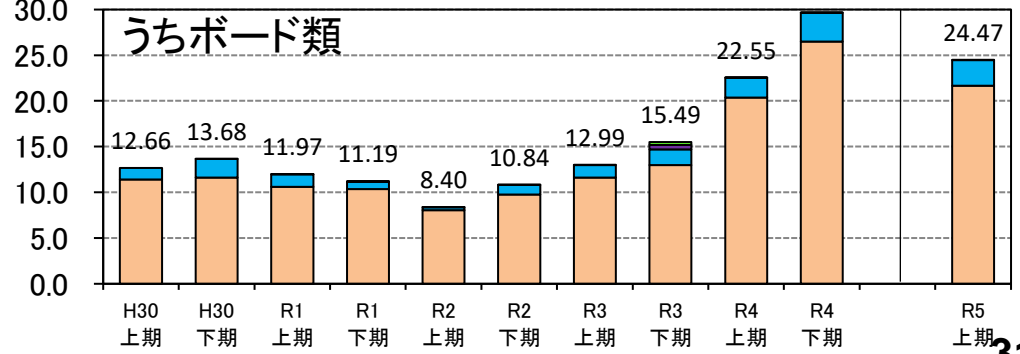
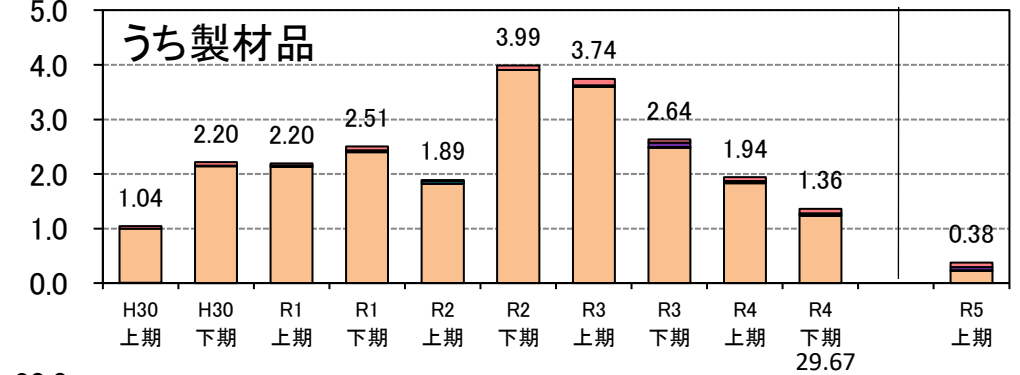
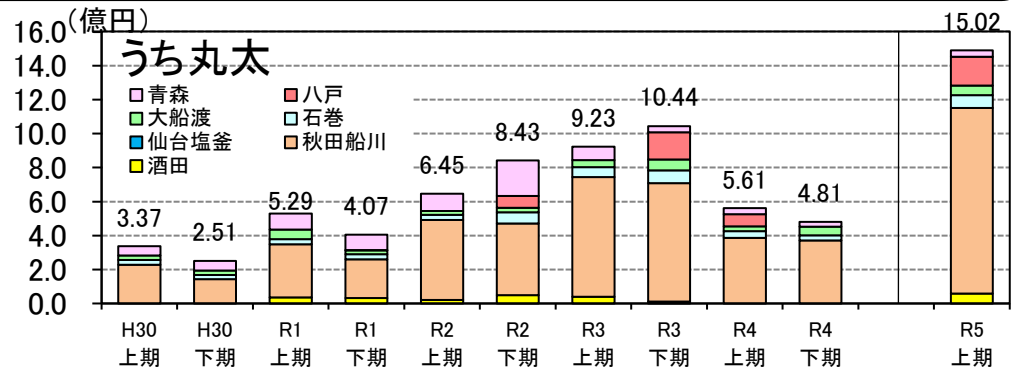
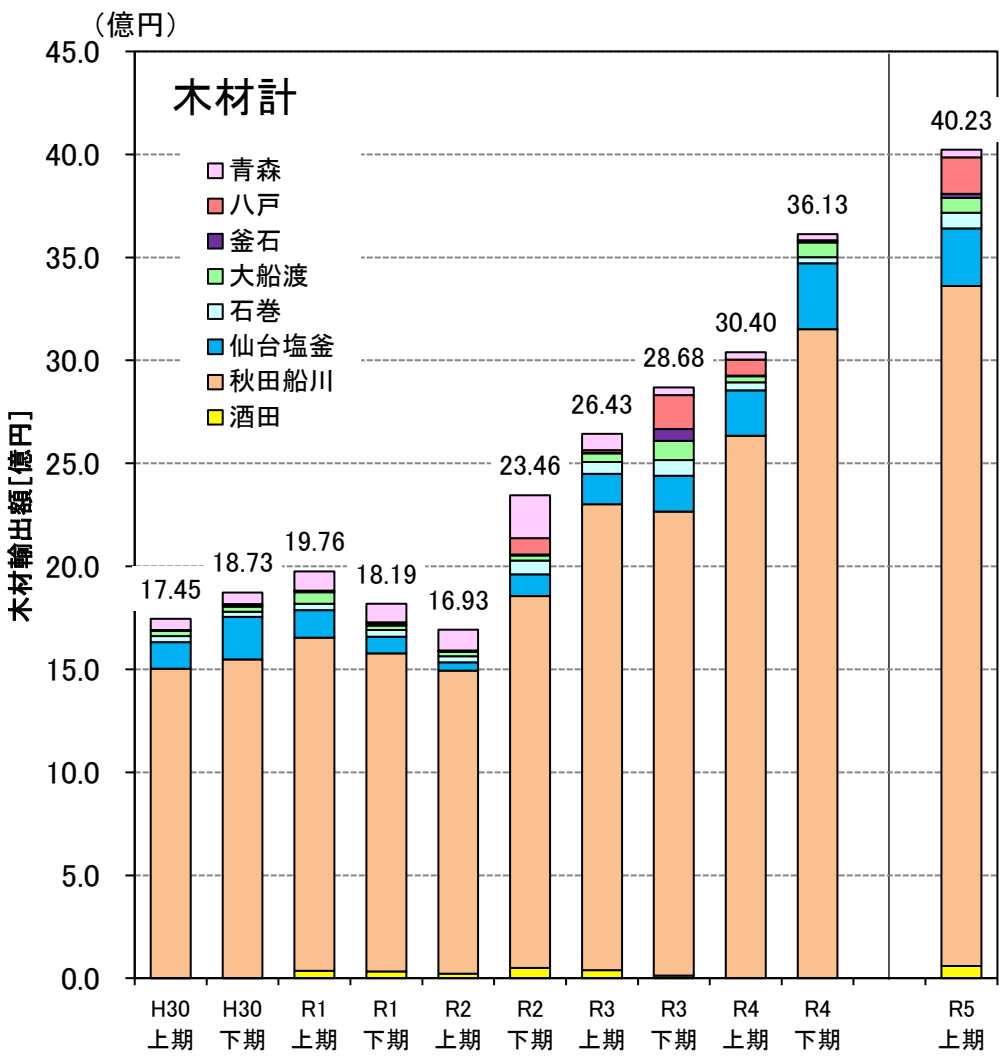
- 木材輸出額はR5年上期を昨年同期と比較すると-3%となっている。
- R5年前期の主要相手国は、中国、フィリピン、アメリカ、韓国、台湾となっている。
- 品目別輸出額では、丸太が最も高く、次いでボード類、製材となっている。
- R5年上期と昨年同期を比較すると、丸太が+10%、ボード類が+12%、製材が-44%となっている。



出典：財務省「貿易統計：統計品別国別税関別一覧表」

■ 東北5県における木材輸出額の推移

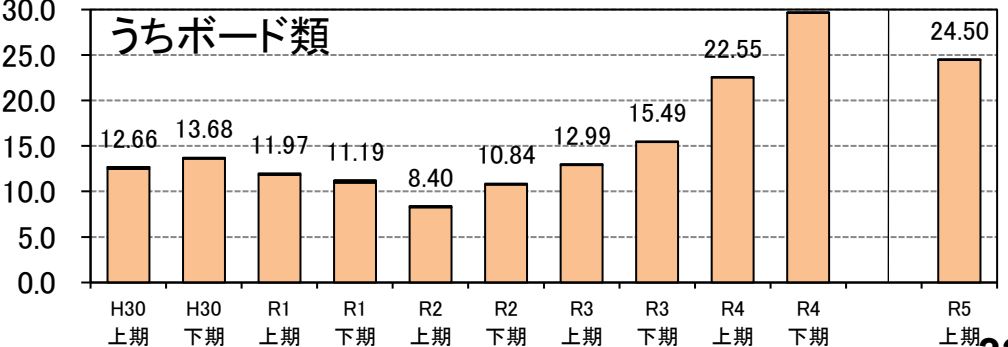
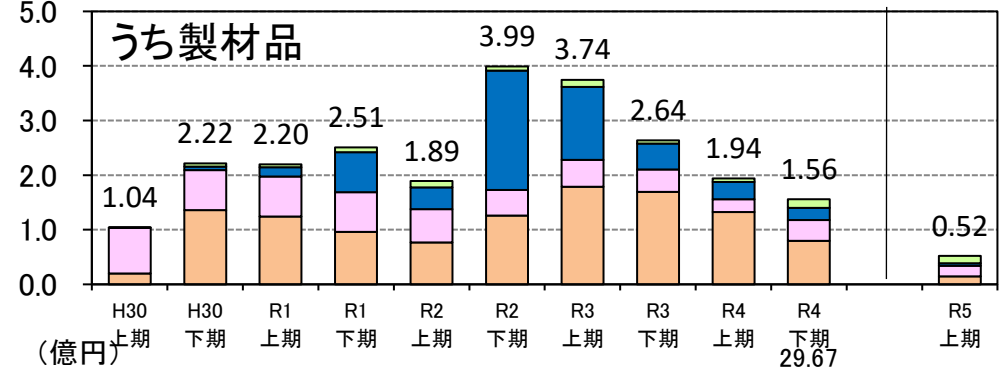
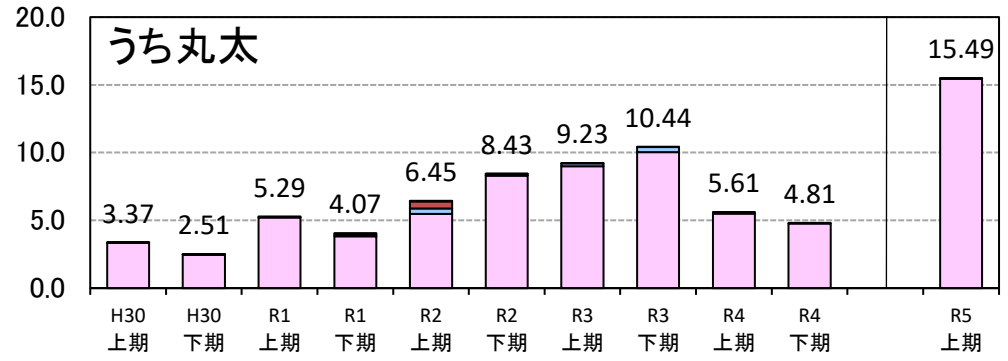
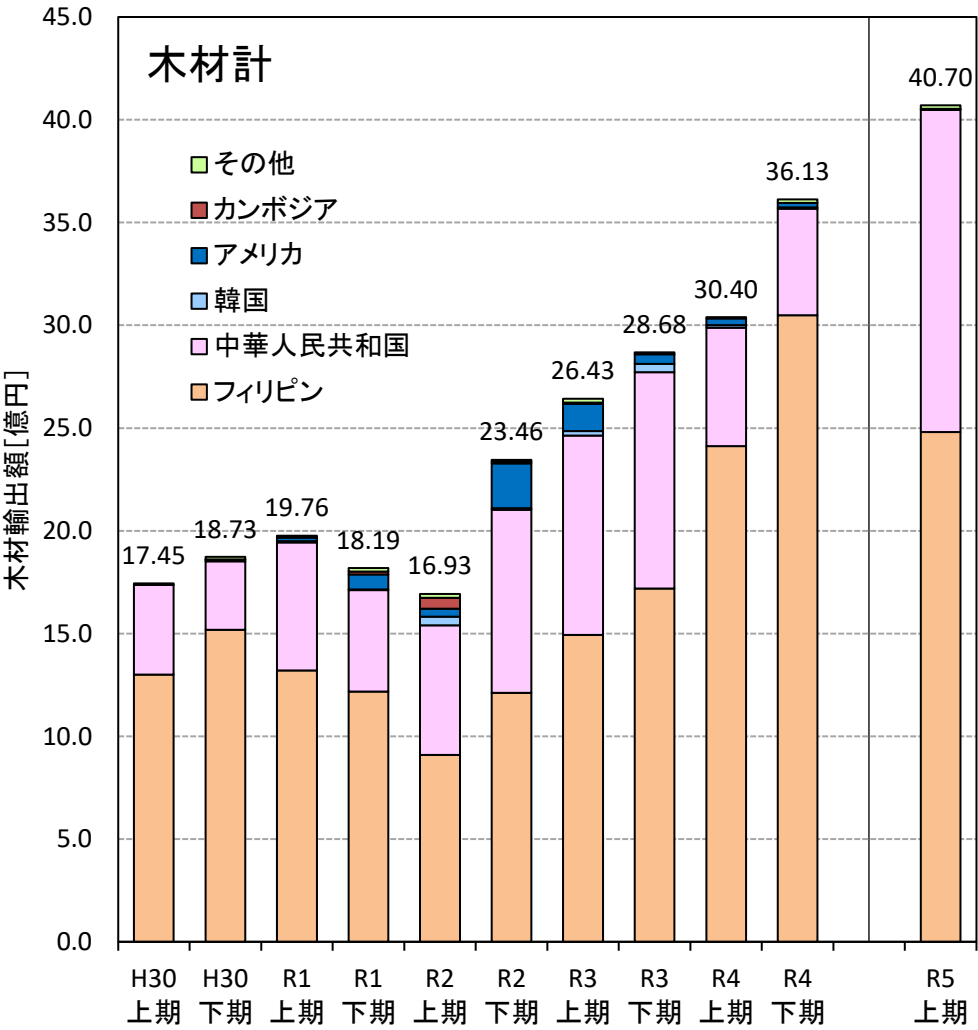
○ R5年上期と昨年同期を比較すると+32%となっている。
 ○ 品目別比較すると、丸太が+168%、製材が-81%、ボード類が+9%となっている。



出典：財務省「貿易統計：統計品別国別税関別一覧表」

■ 東北5県における木材輸出額の推移

○ R5年上期の木材輸出額はフィリピンが最も多く、次が中国となっている。
 ○ 品目別では、丸太は中国が最も多く、製材、ボード類はフィリピンが最も多くなっている。

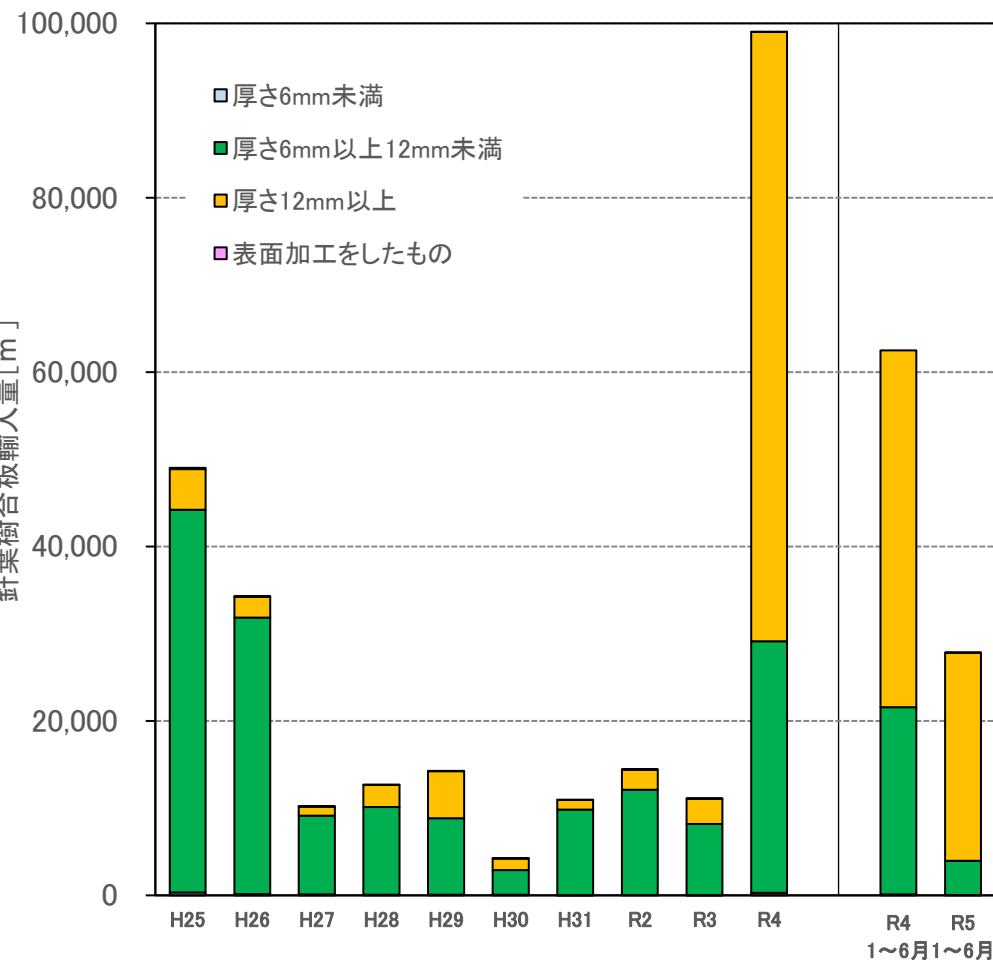


出典：財務省「貿易統計：統計品別国別税関別一覧表」

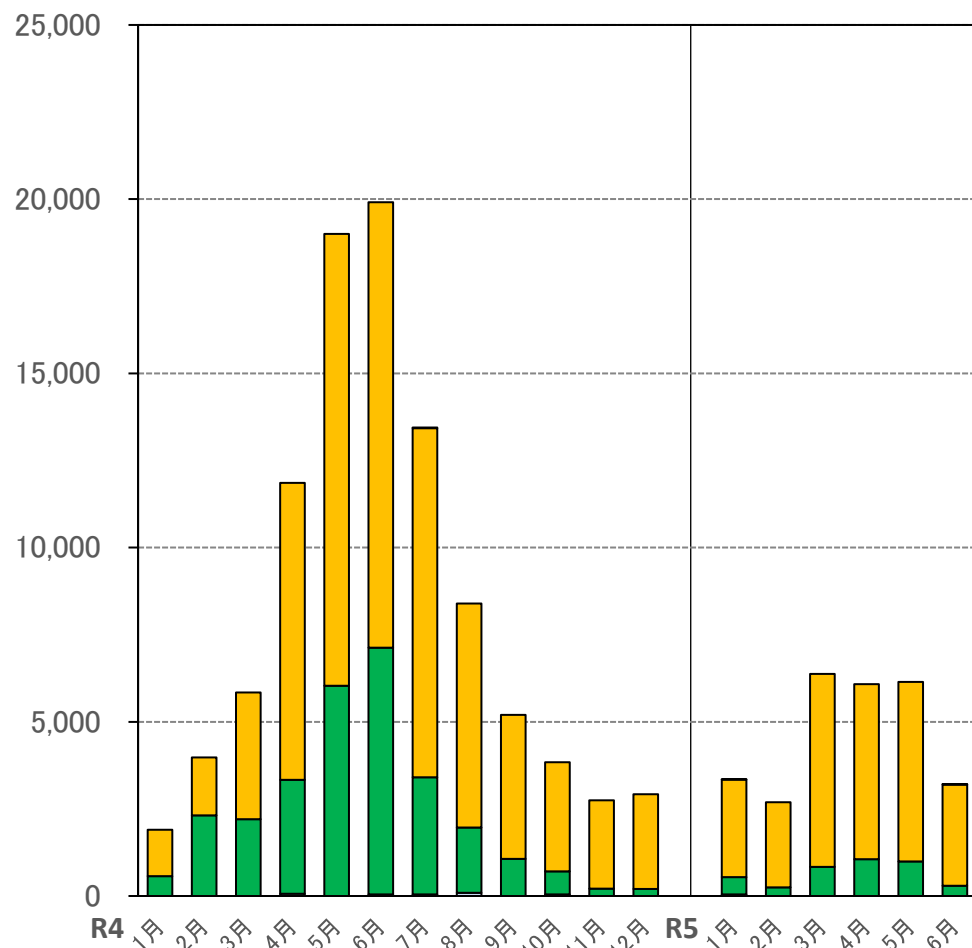
中国からの針葉樹合板の輸入量の推移

- R5年1～6月期と昨年同期を比較すると、-60%となっている。
- R4年の輸入量を月別に見ると、6月が最も多くなっている一方で、R5年では現状3月が最も多い。

中国からの合板輸入量(年別)



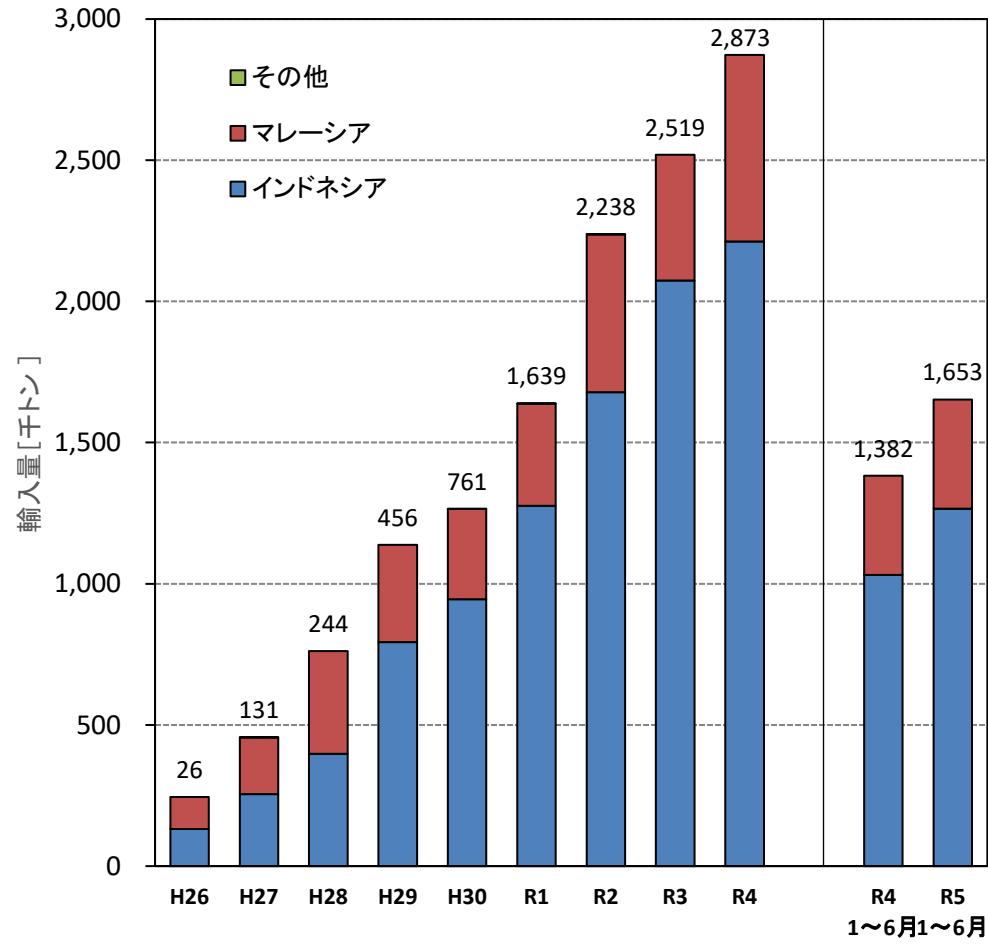
中国からの合板輸入量(R4～R5月別、m³)



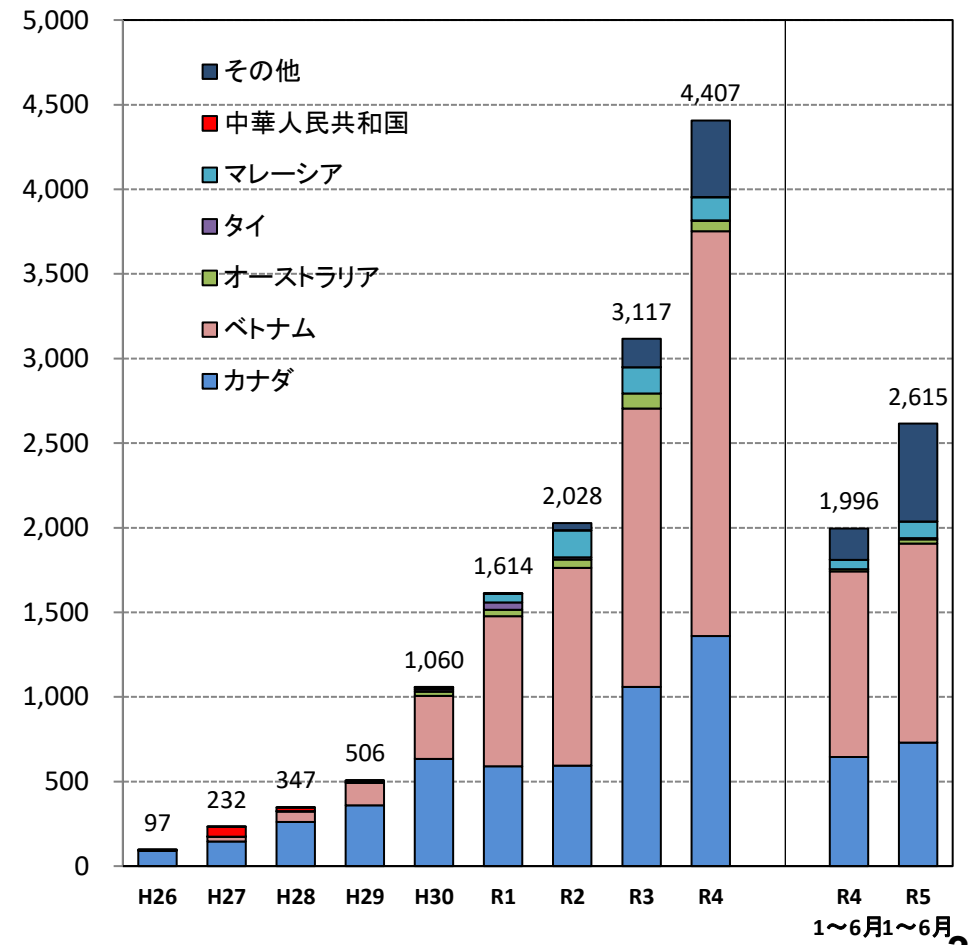
PKS・木質ペレットの輸入量の推移

- PKS輸入量は、R5年1～6月期と昨年同期を比較すると、+20%となっている。
- 主な輸入相手国は、インドネシア77%、マレーシア23%となっている。
- 木質ペレット輸入量は増加しており、R5年1～6月期と昨年同期を比較すると、+31%となっている。
- 主な輸入相手国は、ベトナム45%、カナダ28%、マレーシア4%、オーストラリア1%となっている。

PKS



木質ペレット



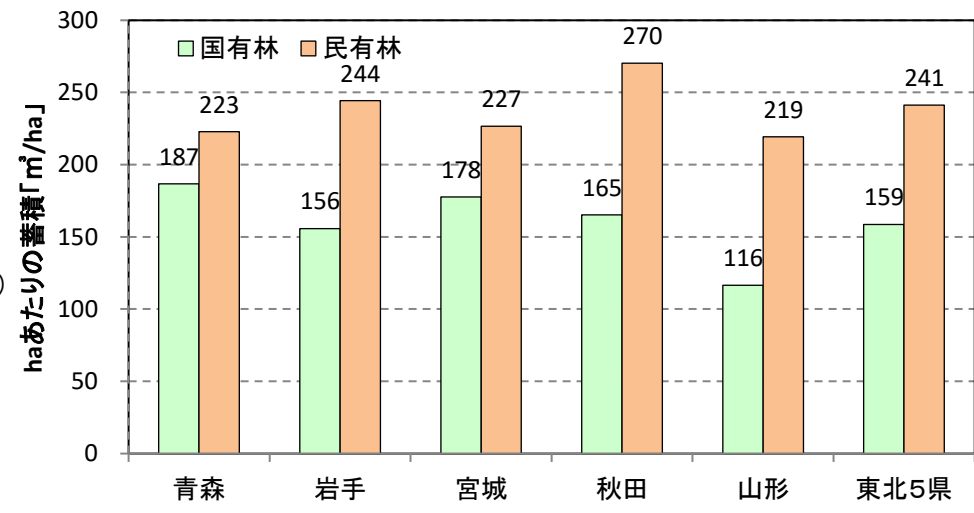
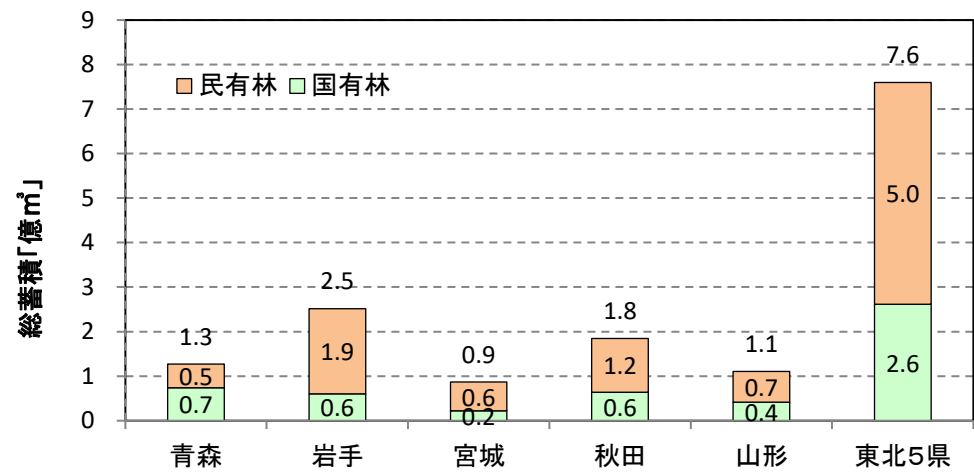
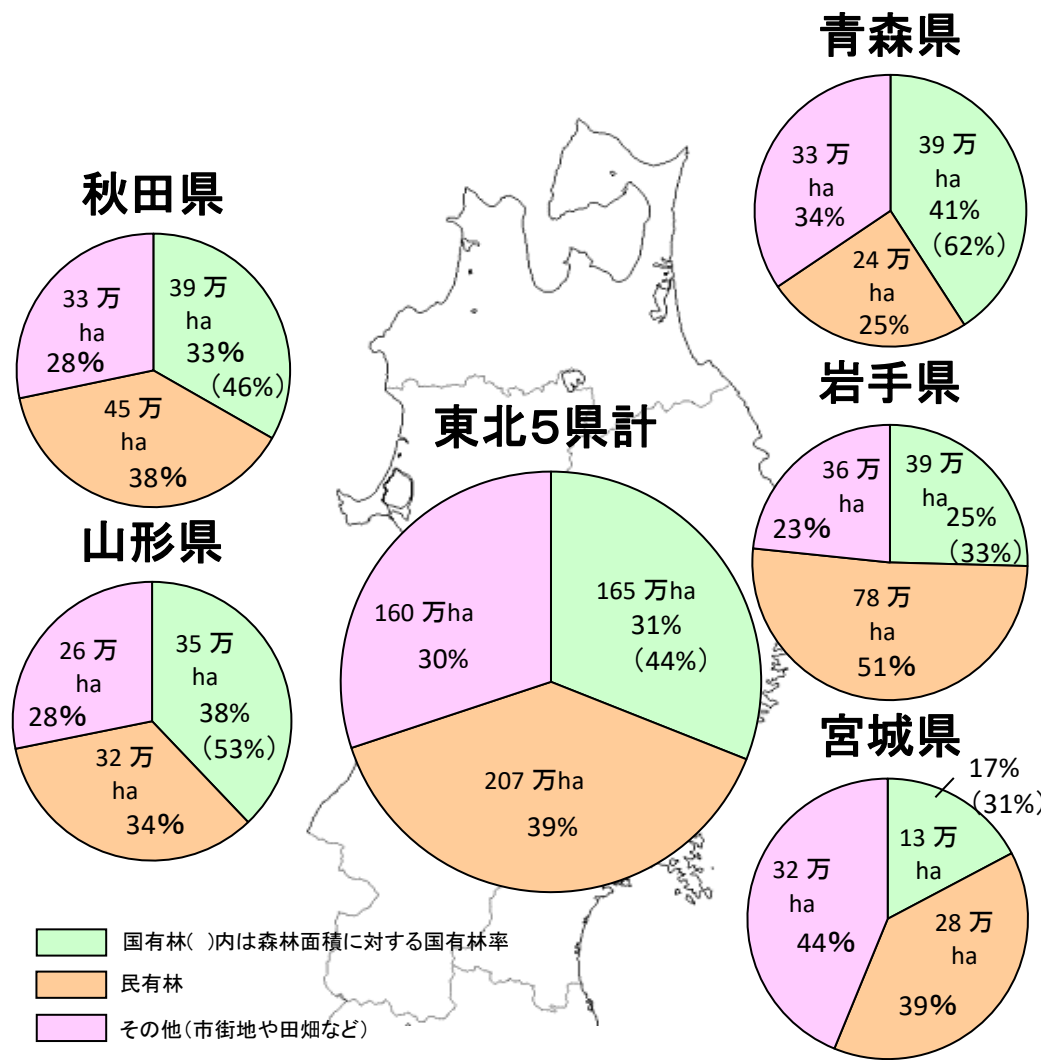
出典：財務省「貿易統計：品別国別統計」

東北森林管理局管内の動静

令和5年6月30日に公表された「令和4年木材統計」等をもとに作成

■ 東北森林管理局管内5県の森林面積及び森林蓄積量

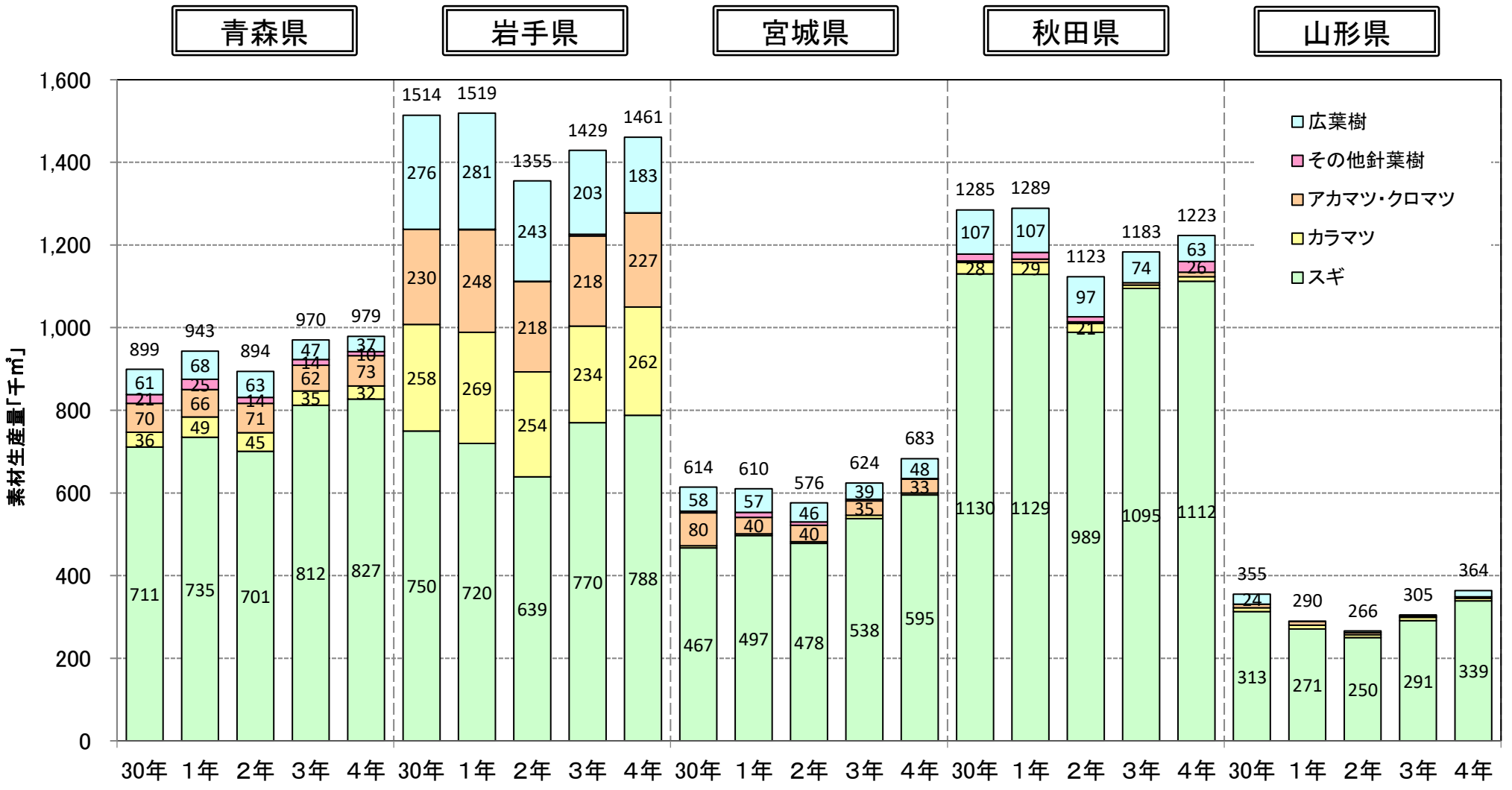
○ 管内東北5県の蓄積量は約7.6億m³で、全国52億m³の約15%相当。
 ○ 国有林は森林面積の約44%を占め、蓄積では34%。民有林のhaあたりの蓄積は200m³/haを上回る。



出典: 青森県の森林・林業(令和4年度版)、令和3年度版 岩手県林業の指標、みやぎの森林・林業のすがた(令和4年度版)、令和3年度版 秋田県林業統計、山形県林業統計(令和3年度版)、国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」(令和3年1月1日)、林野庁「森林資源の現況」(平成29年3月31日現在)、林野庁「第73次令和3年国有林野事業統計書(令和2年度)」

■ 東北森林管理局管内各県の国産材の樹種別素材生産量(民・国の合計)

○ 生産樹種は県によって異なる。青森県・宮城県・秋田県・山形県はスギが主体。
 ○ 岩手県ではスギに加え、カラマツ・アカマツ・クロマツ・広葉樹の生産量が多い。

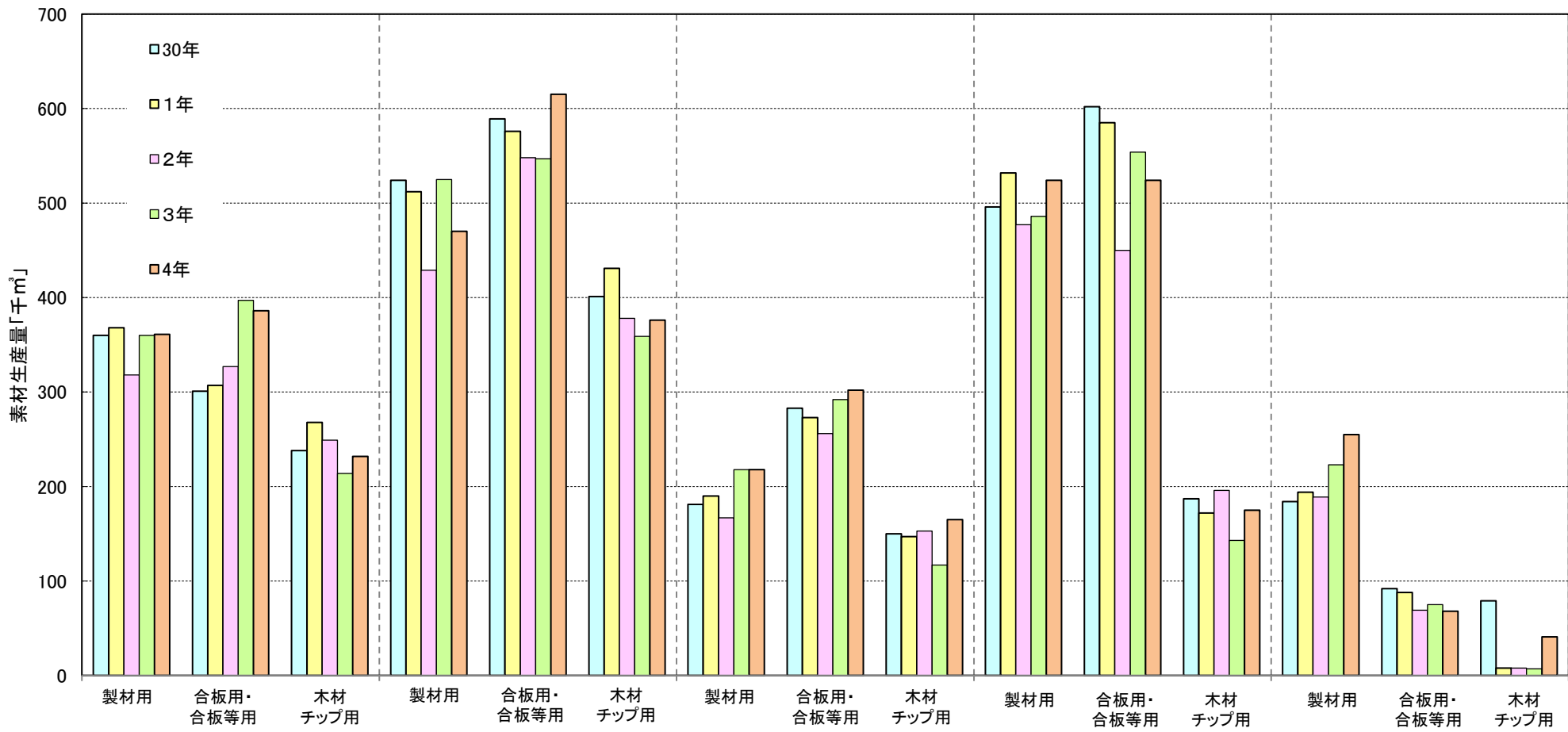


出典：農林水産省「木材統計」(令和4年度までの集計値)

■ 東北森林管理局管内各県の需要部門別国産材の素材生産量

○ R4年の製材用の比率が高いのは山形県(70%)。
 ○ R4年の合板等用の比率は青森(39%)、岩手県(42%)、宮城県(44%)、秋田県(43%)が高い。
 ○ R4年の木材チップ用の比率は秋田県(14%)、山形県(11%)が低い。

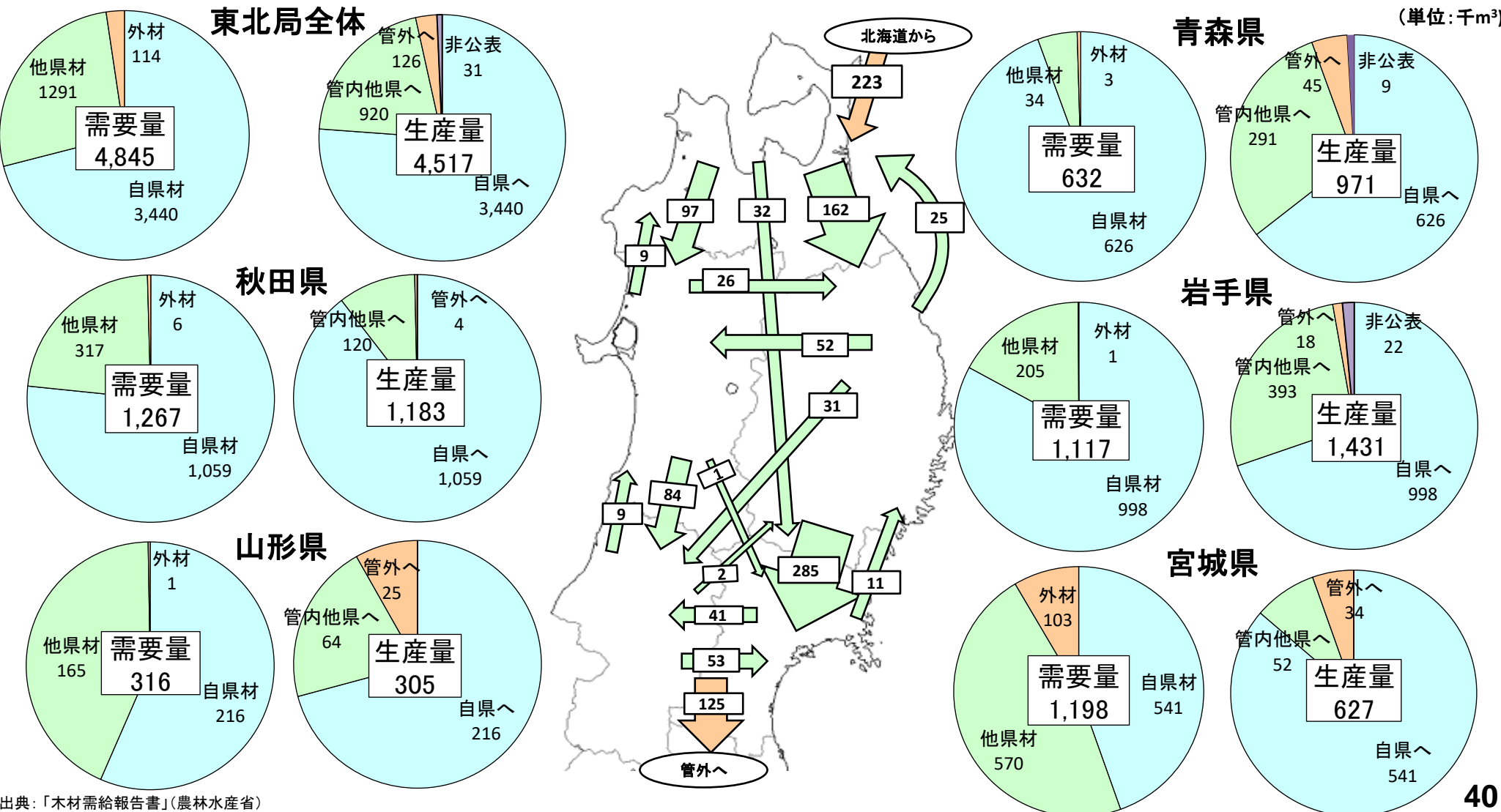
青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県



出典：農林水産省「木材統計」(令和4年度までの集計値)
 注意：平成29年度から、「合板用」が新たにLVL用を含めた「合板等用」に変更となった

令和3年における東北森林管理局管内各県の生産量及び需要量

- 東北森林管理局管内5県で生産された素材はのうち、約96%が管内で流通している。
- 青森県、岩手県は生産量が需要量を上回り、宮城県、秋田県、山形県では需要量が生産量を上回っている。
- 青森県、岩手県、山形県は生産量の約31～39%が他県に出荷されている。



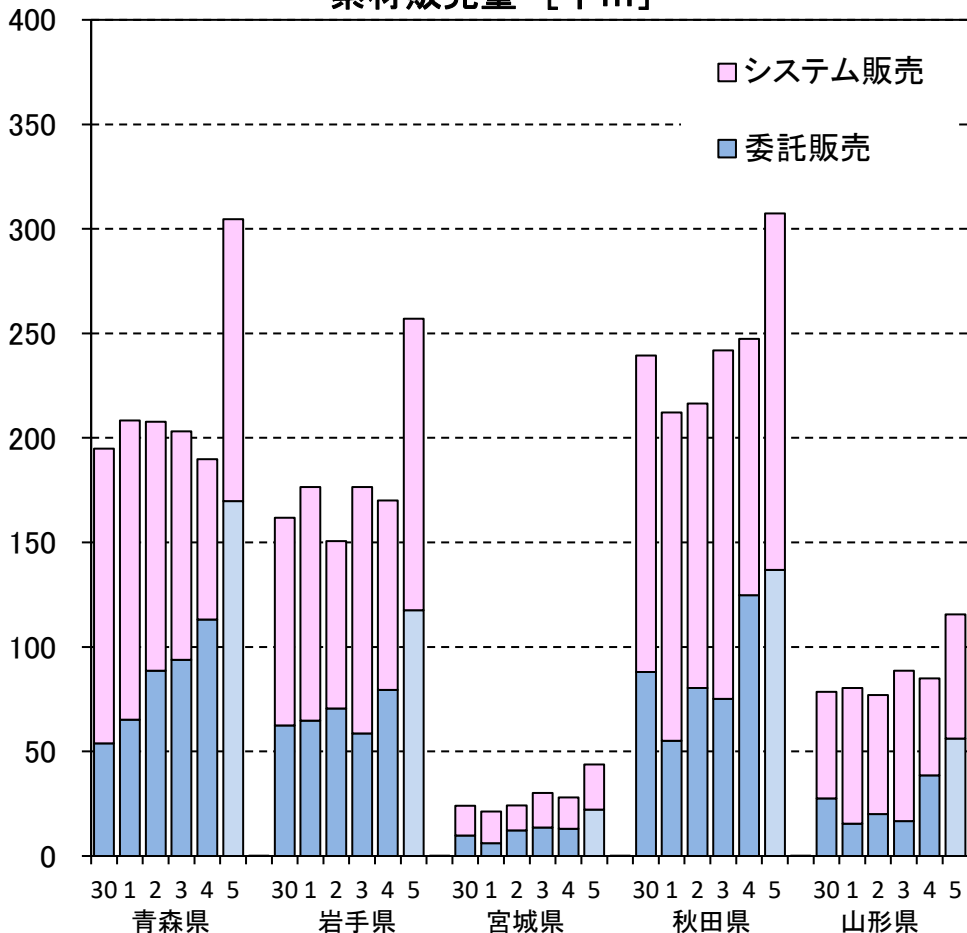
出典: 「木材需給報告書」(農林水産省)

■ 東北森林管理局管内5県の国有林材の販売実績の推移

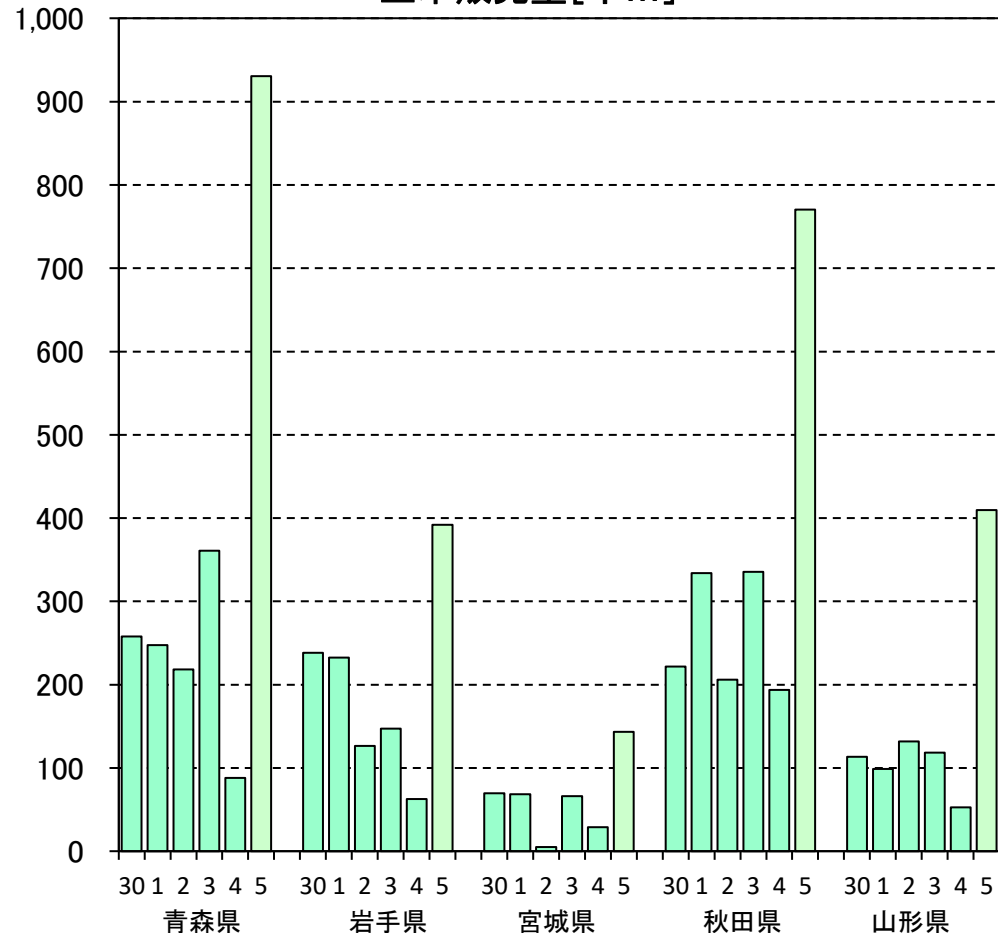
○ 令和4年度の各県における素材販売量に占めるシステム販売の割合は40%～55%で東北5県では49%だった。令和5年度計画では、各県におけるシステム販売は44%～55%で、東北5県では51%となっている。

○ 令和4年度の立木販売実績は平成30年度と比較すると－53%、前年度比では－59%だった。

素材販売量 [千m³]



立木販売量 [千m³]



注1: 素材販売量は丸太の材積であり、立木販売量は立木材積である。
 注2: 令和5年度は計画量である。
 出典: 林野庁業務資料